



家庭用マイコン電気圧力鍋
3.0L (OEDG30)
4.0L (OEDG40)

愛情点検		長年ご使用の電気圧力鍋の点検を!	
	こんな症状はありませんか	ご使用中止	
	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグ・コードが異常に熱くなる。 ●コードに傷が付いたり、通電したりしなかったりする。 ●圧力が上がらない。(フロートが上がらない。) ●本体が変形したり、異常に熱い。 	事故防止のため、使用を中止し、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店又は、弊社【お客様相談室】に点検をご依頼ください。	

★★★ インターネット・モバイルページでユーザー登録を受け付けています ★★★

<https://www.wonderchef.jp/register/register.php>

ユーザー登録をして頂くと、毎月2回「季節のレシピ」を含むメールをお届けいたします。

また、ユーザー登録専用のインターネットホームページでは、ユーザー同士がコミュニケーションを持てる「掲示板」もご用意致しております。QRコードを読み取って頂くと「ユーザー登録ページ」から、「ワンダーシェフのホームページ」をご覧ください。

※QRコードが読みとれない場合は、URLを直接入力してください。



QRコードは
弊社
ウェブの
登録商標です。

お客様相談室

圧力なべ協議会 会員
株式会社ワンダーシェフ

〒561-0825 大阪府豊中市二葉町1丁目19-19

ホームページ: <http://www.wonderchef.jp/>

Eメール: web@wonderchef.jp

電話 06(6334)4349

FAX 06(6334)4343

受付時間/午前 9:00~正午 12:00

午後 1:00~午後 5:00

(土、日、祝祭日、年末年始、盆休みを除く)

アフターフォローは日本国内に限ります。



この取扱説明書は2022年1月現在のものです。品質向上の為、商品仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

掃除ピン

この取扱説明書を
よくお読みの上、
正しくご使用下さい。
読んだ後は必ず保管
してください。

- 圧力鍋は、各メーカー、各商品によって、仕様及び使用方法が全く異なります。
- 本書の諸事項を守らないで万一事故が発生した場合は、使用者の責任となります。
- 保証書は38ページにございます。「お買い上げ日・販売店名」を販売店に記入して頂いてください。記入が無い場合はレシートと共に大切に保管してください。
- 別途付属の取扱説明書、注意書きがある場合は、そちらも必ずお読み頂き、大切に保管してください。



このマークは、製品安全協会が、製品安全を図るために定めた基準に合格したことを証明する表示です。万一製品の欠陥により、人身事故が発生した場合、協会が損害を賠償します。「消費生活用製品安全法」に基づく特定製品として、認証されている製品に貼られます。

<基準認証品>

製品安全協会

IPCC 圧力なべ協議会



Wonderchef
楽ポン
nooge
ヌージュ

取扱説明書

家庭用マイコン電気圧力鍋

3.0L (OEDG30)

4.0L (OEDG40)

この圧力鍋の作動圧力は
70kPaの普通圧タイプです。
調理の際は加圧時間にご注意ください。

wonder

このたびは、ワンダーシェフ家庭用マイコン電気圧力鍋をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に、この取扱説明書を最後までお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

CONTENTS

- ご使用になる前に「圧力調理」にはコツがある! 3
- ご使用になる前のご注意 4~6
- 使用上のお願い 7
- 各部の名称 (3ℓ/4ℓ) 8~9
- クイックガイド
 - 使い方と調理の流れ 10~11
 - フタの閉め方 (3ℓ/4ℓ) 12
 - フタの閉め方 (非ロック時・ロック検知スイッチ) 13
 - フタの開け方 (3ℓ/4ℓ) 14
 - 電気圧力鍋の基本的な使い方 (シミュレーション) 15
- 圧力調理のしかた (圧力フタを使用)
 - 〈準備〉 16~17
 - 〈圧力調理コース〉 18~19
 - 〈蒸しコース〉 20
 - 「保温について/やむを得ず急いでフタを開ける」 21
- オート圧力調理のしかた (圧力フタを使用)
 - 〈白米・玄米の炊き方〉 22~23
 - 〈赤飯・角煮・肉じゃが・カレー・おでん・スープ・黒豆・さかなの作り方〉 24~25
- 追加熱調理のしかた〈仕上げ調理〉(ガラス蓋を使用) 26
- 温度調理のしかた (ガラス蓋を使用) 27
- 煮込み調理のしかた (ガラス蓋を使用) 28
- 予約タイマーのしかた (圧力フタを使用) 29
- 電気圧力鍋の使い方
 - 使うたびにお手入れ 30
 - ご使用前に毎回チェック 31
 - フタを閉める (3ℓ/4ℓ) 32~33
 - フタを開ける 34~35
- 故障かな?とおもったら 36~37
- 保証書 38
- 保証とアフターサービス 39

ご使用になる前によく読み、必ずお守りください



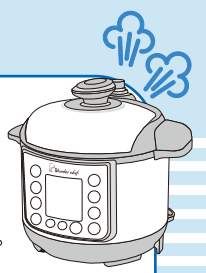
圧力調理中・蒸し料理中・オート圧力調理中は、内部が極めて高温・高圧になり危険です。以下の注意事項を必ずお守りください。

- ◎お使いになる人や、他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。
- ◎本体やフタに貼付しているご注意に関するシールは、はがさないでください。
- ◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保管してください。

「圧力調理」にはコツがある!

◆圧力調理中は、中の様子がわからない?

- 調理時間の設定は、別冊の「クッキングブック」を参考にしてください。
- 時間を少し短めにセットしておき、「仕上げ調理」で、素材の固さを調節してください。
- 味付けは薄めにしておき、「仕上げ調理」で味を調べてください。

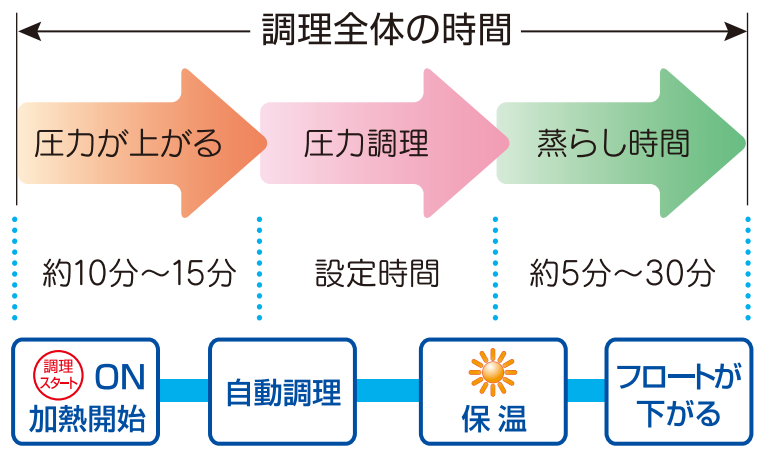


◆時間設定は〈素材〉と〈大きさ〉で決まり!

- 素材1個の切り方・大きさが変わると時間が変わる。
- 素材の大きさを揃える。
- 違う素材と一緒に調理する時は、火の通りやすい素材は大きめに切る。(食材が水分に浸かっていないと、火の通りに違いが出ますのでご注意ください)

◆圧力調理にかかる時間って?

「10~15分」+「設定時間」+「蒸らし時間」



※設定時間は、鍋の中の圧力が一定圧に上がってからの調理時間を示します。
 ※但し、追加熱調理の場合は、設定時間が調理全体の時間となります。
 ※〈圧力が上がる〉・蒸らし時間は、材料の分量によって異なります。
 ※日本国内100V専用(交流100V以外の電源では使用できません)

表示内容を見逃して誤った使い方をした時に生じる
危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

警告

「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」
内容を示します。

注意

「傷害を負う可能性または、物的損害が発生する
可能性が想定される」内容を示します。

お守り頂く内容の種類を、次の絵表示で区分し、
説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

禁止

このような絵表示は、してはいけない行為を
「禁止」する内容です。

強制

このような絵表示は、必ず実行していただく
「強制」する内容です。

警告

- 異常・故障時には直ちに使用を中止する
発煙や発火、感電、やけど、けがの恐れがあります。
※すぐに電源プラグを抜き、販売店またはP39の
ワンダーシェフ【お客様相談室】へ点検・修理を
依頼してください。

<異常故障例>

- 電源プラグ・電源コードが異常に熱くなる。
- 電源コードに傷が付いたり、通電したり・しなかったりする。
- 本体が変形したり、異常に熱い。
- フロートが上がらない。
- 異臭がする。

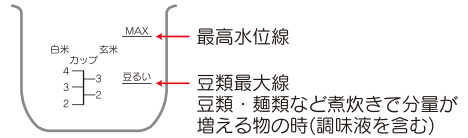
■ 電源コード・コンセントは…

- 乳幼児が誤って電源コードを
なめないように注意する
感電やけがの原因になります。
特に乳幼児には注意してください。
- 電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全だと、感電や発熱による火災の
原因になります。
傷んだ電源プラグや、ゆるんだコンセントは使用
しないでください。
- 電源プラグのホコリなどは定期的にとる
プラグにホコリがたまると、湿気などで絶縁不良
となり、感電・ショート・火災の原因になります。
電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。
- 定格15A以上のコンセントを単独で使用する
他の器具と併用すると、分岐コンセント部が異常
発熱して、発火する恐れがあります。
- 使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く
やけどやけが、絶縁劣化による
感電・漏電火災の原因になります。
- 必ず器具用プラグを持って引き抜く
感電やショートして、発火する
恐れがあります。

- ぬれた手で、電源コードの抜き差しをしない
感電やけがをする恐れがあります。
- 電源コードを破損するようなことはしない
傷つける、加工する、高温部に近づける、無理に
曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、
束ねるなどしないでください。
感電・ショート・火災の原因になります。
- コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、
交流100V以外での使用はしない
定格を超えると、発熱による火災の原因になります。
- タコ足配線はしない
火災の恐れがあります。
- 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセント
の差し込みがゆるい時は使用しない
感電・ショート・発火の原因になります。
- センサーに衝撃を与えない(P30参照)
損傷した場合そのまま使うと、過熱や異常動作、
感電の原因になります。
- 水のかかる所や、火気の近くでは使用しない
感電や漏電・本体の変形や火災・故障の原因になり
ます。

警告

- 本体を水につけたり水をかけたりしない
ショート・感電・火災の
恐れがあります。
- 材料・調味液は下記の目盛り以上に入れない
水・食材を合わせて、内がまの容量の2/3未満の量
(MAX)で使用してください。
豆類・麺類などの調理中に膨張するものや、お粥の
ように泡が出やすいもの、粘性の高いジャムなど
は、水・食材を合わせて内がまの容量の1/3未満の
量(豆のい)で使用してください。
噴き出して、やけど・けがをする恐れや故障の可能性
があります。



- 次の状態で使わないこと
圧力を安全に逃がすことができず、フタが外れて
中身が飛び出す恐れがあります。
●圧力調理時、フタを確実に閉めていない。
●おもりやノズル、ノズルフィルターが目詰まりしている。
●ノズルフィルターを付けていない。
●パッキンが傷んでいる。
●材料がパッキン押さえリングやパッキンに当たっている。
●おもりに異物が詰まるなどして動作しない。

- おもりに顔や手を近づけない
やけどをする恐れがあります。
特に乳幼児には、さわらない
ように注意してください。
- 子供や取り扱いに慣れない方だけで使用した
り、幼児の手の届くところで使用しない
やけど・感電・けがをする恐れがあります。
- 多量の油や重曹など、急激に熱反応して発泡
するものは使わない
やけど・けがをする恐れがあります。
- 調理以外の目的で使用しない
故障の原因になります。
- 改造・分解・修理をしない
火災・感電・けがの原因になります。

- 調理終了後、フタを開ける時は…
P34～35の【フタを開ける】の手順に従い、内圧を
完全に下げてからフタを開けてください。
●調理が終わった後も、鍋の中には圧力が残ってい
ます。
●鍋の中に少しでも圧力が残っている状態でフタを
開けると、内容物が噴き出して、やけどやけがを
する恐れがあります。

注意

- 鍋は不安定な状態では使用しない
落下や転倒などにより、やけどやけがの原因にな
ります。鍋の破損により、火災の原因になります。
- 底の穴をふさぐような場所や、熱に弱い敷物
の上、室温の高い場所では使用しない
テーブルクロス・カーペット・ビニール袋などの上
には置かないでください。
感電や漏電、火災、故障の原因になります。
- 空焚きをしない
内がまや本体が過熱し、やけどや調理物の発火、
鍋の破損の恐れがあります。
- 調理以外の目的で使用しない
故障の原因になります。

- 内がま単体を他の熱源に
かけない
故障や変形の原因になります。
- 専用の内がま以外を本体に
セットして使用しない
故障や変形の原因になります。

急いでフタを開ける場合は、電源プラグを抜き、
おもりに乾いた布をかけて、排気ボタンを押す
安全に十分注意して、フタを開けてください。
おもりの蒸気孔から勢いよく
蒸気が出続けますので、やけど
などに注意してください。
絶対に顔や手をおもりの蒸気孔に
近づけないでください。
(急減圧すると、煮崩れしやすくなります。)

注意

カレーやシチューなど、粘性の強い料理は加圧しない
カレーやシチューなど粘りけの強いものは、ルウを入れずに「圧力料理」し、その後ルウを入れ、圧力フタをせず煮込みます。
(付属のガラス蓋を使用して、煮込んでください)

天ぷらなど、揚げ物調理に使用しない
過熱により、発火する恐れや故障の原因になります。

使用中や使用直後は、高温部にふれない
やけどの原因になります。

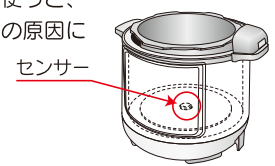
使用後しばらくは、熱板にふれない (P30参照)
やけどの原因になります。

壁や家具の近くでは使用しない
蒸気や熱で壁や家具を傷め、変色・変形の原因になります。

専用の電源コード以外は使用しない
また、電源コードは他の機器に転用しない
感電・漏電・火災・故障の原因になります。

水のかかる所や、火気の近くでは使用しない
感電や漏電・本体の変形や火災・故障の原因になります。

センサーに衝撃を与えない (P30参照)
損傷した場合そのまま使うと、過熱や異常動作・感電の原因になります。



油脂分の多い食材を大量に調理する場合は、一度下ゆでをする
油脂分の多い食材(すじ肉、スペアリブ等)を一度に大量に調理すると、油脂分が固着して安全装置が正常に作動なくなることがあります。大量に調理する場合は、レシピに記載が無くても一度下ゆでして、油脂分を落としてから調理してください。

移動時はフタ取っ手を持たず、本体取っ手を両手で持って移動する
鍋が落下して、やけど・けが、故障の原因になります。

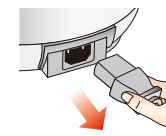
お手入れは、冷えてから行う
高温部にふれることによる、やけどの恐れがあります。

圧力鍋のパッキンは、消耗品です
安全にご使用いただくため、1年に1回は新しいものに交換してください。
洗ってもヌメリが残る場合は、ご使用期間に関わらず、新しいものに交換してください。

本体取っ手やガラス蓋のつまみがぐらぐらするとき、締め直してから使用する
そのまま使うと、取っ手やガラス蓋のつまみがはずれて、やけどやけがをする原因になります。

使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く
けがややけど、絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。

必ず器具用プラグを持って引き抜く
感電やショートして、発火する恐れがあります。



突沸について

加熱した液体が、沸点(水:100℃)を超えても沸騰しない状態(過加熱状態)で、振動などの衝撃で突然、激しく沸騰する現象を「突沸」と言います。
「追加熱」する時は、ゆっくりよくかき混ぜながら温めてください。
激しい「突沸」が起こると、内容物が噴出して周囲に内容物が飛散し、その勢いで鍋が大きく動くことがあり、やけどやけがの原因になり大変危険です。

取り扱いがていねいに
落としたり、強い衝撃を加えたりすると、けがや故障、内がまは変形の原因となります。

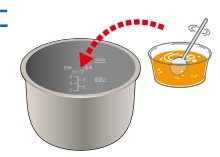
故障を防ぐために、ごはんつぶなど異物を付けたまま使わない
センサー・熱板・パッキン・内がまの底などに異物が付いていると故障の原因になります。



別の調理鍋などを本体に入れて使わない
故障の原因になります。

内がまを他の熱源にかけない
故障や変形の原因になります。

センサーの誤検知を防ぐために調味液は、合わせてよく溶かしてから入れる
生煮えになるなど、うまく調理ができない原因になります。



内がま内面のフッ素樹脂皮膜のはがれや傷付を防ぐために

- 長時間、調理物を入れたままにしない。(特に塩分が多い物など)
- 金属製の調理器具(おたま、フライ返しなど)は使用しないでください。
- 付属の蒸しすを使用してください。
- 内がまで直接、洗米しないでください。
- 内がまに硬いものを当てたり、たたいたりしないでください。変形による蒸気漏れなどの原因になります。
- おもりやノズルフィルター、電源コードを内がまに入れたりしないでください。
- 内がまを洗いおけ代わりに使用しないでください。
- スプーンや食器類を入れないでください。
- 内がまのお手入れは、柔らかいスポンジで洗ってください。
- 磨き粉、金属たわし、ナイロンたわしで洗ったり、こすったりしないでください。
- 台所用中性洗剤以外のシンナー、漂白剤、クレンザー、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

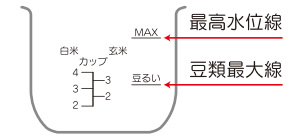
内がま・フタを食器洗浄機や食器乾燥機などでは使用しない
変形する恐れがあります。

フタ・内がま・パッキンはご使用前に洗う
使い始めたばかりの時は樹脂、金属のにおいがするかも知れませんが、本体・電源コード以外は丸洗いできます。

本体・電源コードは丸洗いはしない (フタは内側のみ流水で洗浄してください)
本体内部や底部に水を入れたりしないでください。本体・電源コードが濡れた状態で使用すると、ショート・感電の恐れがあります。

次のような場所では使用しない
変形や跡形が付いたり、こげたり、故障・感電・火災の原因になります。
● ビニール製などの熱に弱いテーブルクロスの上
● たたみ・じゅうたんなどの上
● 熱に弱いテーブルやワゴンの上
● カーテンなどの近くや不安定な場所

3分の2以上の内容物を入れて使用しない
特に豆類・麺類などの調理中に膨張するものや、お粥のように泡が出やすいもの、粘性の高いジャムなどは、水・食材を合わせて3分の1未満で使用してください。うまく調理できなかったり、故障の原因になります。
内がまの内側のMAX線(最高水位線)・豆るい線(豆類最大線)の目盛り以下で使用してください。



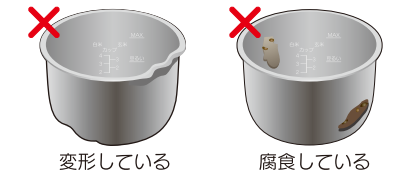
調理中は本体を移動しない
やけどの原因になります。

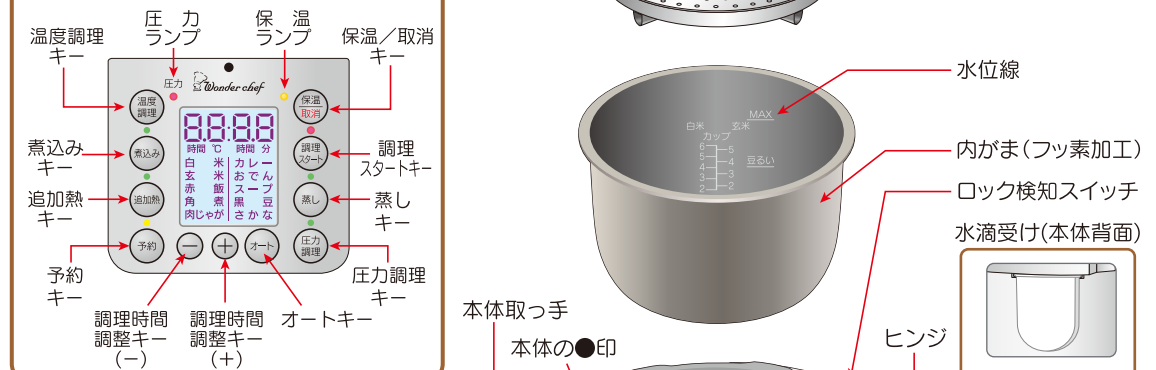
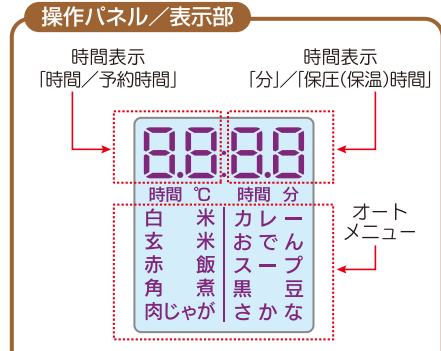
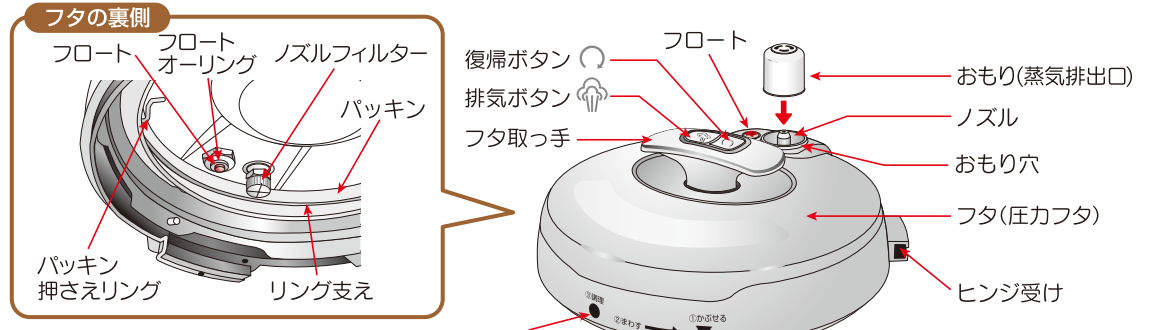
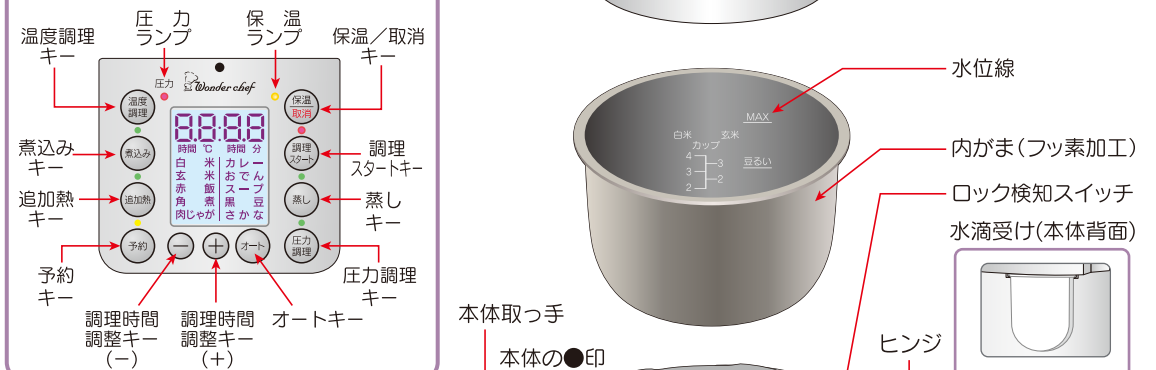
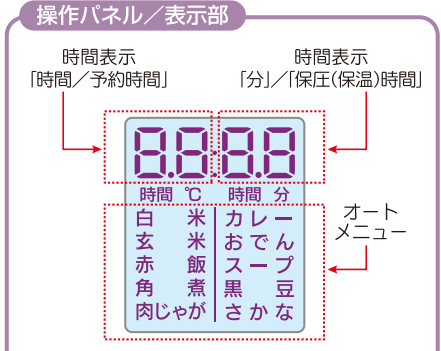
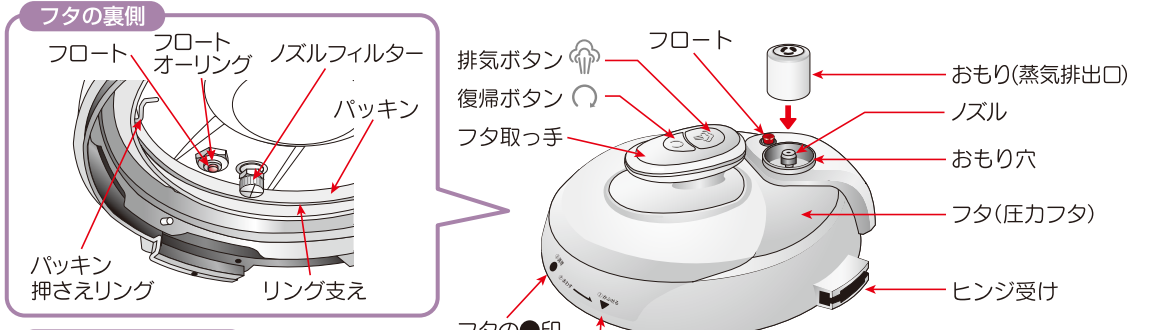
フタを開ける時、蒸気に注意する
やけどの恐れがあります。
フタを開ける時、蒸気に注意してください。

使用後はいつも清潔にお手入れする
ご使用後はいつまでも清潔にご使用いただくために、必ずその日のうちにお手入れしてください。
フタ・本体・電源コード以外は丸洗いできます。
本体内部へは、絶対に水が入らないように注意する。
◎お手入れのしかたは、P30を参照してください。
◎長期間使用しない場合は、良く乾燥させフタを裏向けにするなどして、内部が密閉状態にならないよう保管してください。

機能・性能を維持するため、製品に穴を設けてありますが、この穴から、まれにほこりや虫が入ったりすることがあります
外観上・機能上支障のある場合は、お買い上げの販売店、または「P39」に記載のワンダーシェフ【お客様相談室】までお問い合わせください。

内がまが変形や腐食した場合
お買い上げの販売店、または「P39」に記載のワンダーシェフ【お客様相談室】までお問い合わせください。





※別の製品の部品の流用は危険ですのでおやめください。
 ※部品を破損、紛失されたときは、このページのパーツ名と、お持ちの商品の品番を確認の上、P39の【お客様相談室】へお問い合わせください。
 ※これらは標準付属品です。モデルによってセット内容が異なります。
 ※品質向上の為、商品仕様を予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。
 ※別途付属の取扱説明書、注意書きがある場合は、そちらも必ずお読みいただき、大切に保管してください。

※別の製品の部品の流用は危険ですのでおやめください。
 ※部品を破損、紛失されたときは、このページのパーツ名と、お持ちの商品の品番を確認の上、P39の【お客様相談室】へお問い合わせください。
 ※これらは標準付属品です。モデルによってセット内容が異なります。
 ※品質向上の為、商品仕様を予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。
 ※別途付属の取扱説明書、注意書きがある場合は、そちらも必ずお読みいただき、大切に保管してください。

1 内がまに具材を入れて
本体にセット

2 フタを閉める
反時計回り
ヒンジをたおす

P32~33参照

3 おもりをセットして
復帰ボタンを押す

復帰ボタン おもり

4 電源プラグ・器具用
プラグを差し込む

10分間操作がないと、待機モードとなり液晶表示が暗くなり、調理スタートランプが点滅します。

5 圧力調理 キーを押す

ピッ!

6 - + キーで
調理時間をセット

ピッ! ピッ! ピッ!

基本的な調理の流れ

加熱 約10分~15分

加圧 設定時間

保温 約5分~30分

7 調理スタート キーを押す

調理スタートランプが点灯

ピッ!

8 フロートが上がる

9 圧力調理開始

圧力ランプが点灯

ピッ! ピッ!

フロートが上がってから圧力調理開始には、数分時間がかかることがあります。

10 設定時間終了

ピッ! ピッ!

P18参照

11 保温

保温ランプが点灯

ピッ! ピッ! ピッ! ピッ!

P21参照

12 フロートが下がる

下がる

※設定時間が終了してからフロートが下がるまでの時間は、内容物の量によって異なります。

13 保温取消 キーで調理終了

ピッ! ピッ!

14 排気ボタンを押す

排気ボタン

15 おもりを外して
復帰ボタンを押す

復帰ボタン おもり

ミトン

16 フタを開ける

時計回り

P34~35参照

17 調理物を取り出す

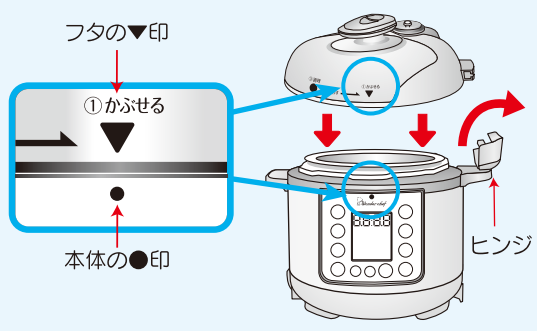
18 器具用プラグ・電源
プラグを抜く
使用後は毎回お手入れ

P30参照

3.0ℓ OEDG30

1 フタをかぶせる

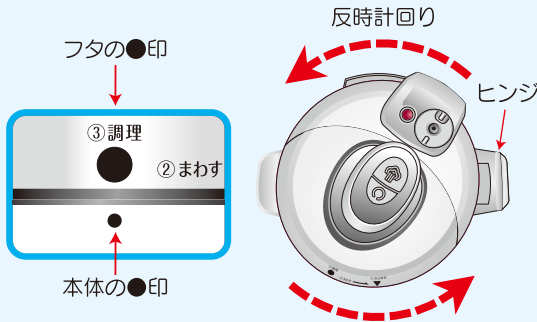
ヒンジを開いて、内がまをセットし、フタの▼印と本体の●印を合わせて、フタを本体にかぶせる。



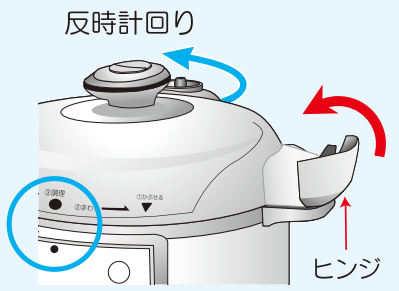
注意 フタはまだ閉まっていません。この状態では加熱できません。

2 フタをロック

フタの●印と本体の●印が合う位置まで、フタを反時計回りに回す。



フタをロック(ロック検知スイッチが作動)し、ヒンジをたおす。

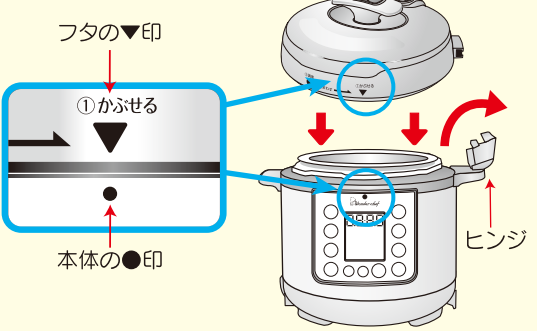


※ロック検知スイッチのカチッと音がするのを確認する。
「ロック検知スイッチ」についての詳しい説明はP13を参照

4.0ℓ OEDG40

1 フタをかぶせる

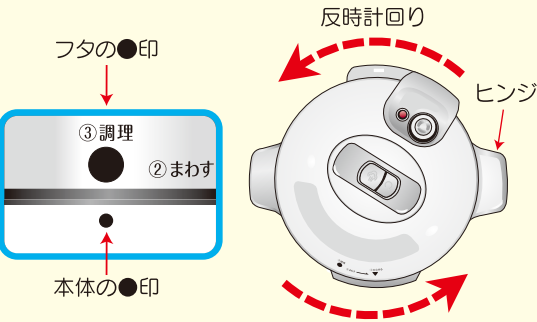
ヒンジを開いて、内がまをセットし、フタの▼印と本体の●印を合わせて、フタを本体にかぶせる。



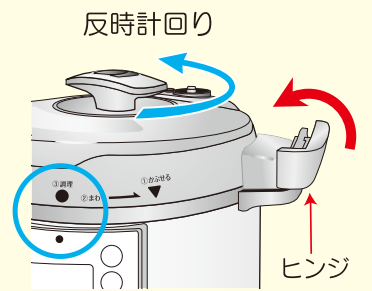
注意 フタはまだ閉まっていません。この状態では加熱できません。

2 フタをロック

フタの●印と本体の●印が合う位置まで、フタを反時計回りに回す。



フタをロック(ロック検知スイッチが作動)し、ヒンジをたおす。

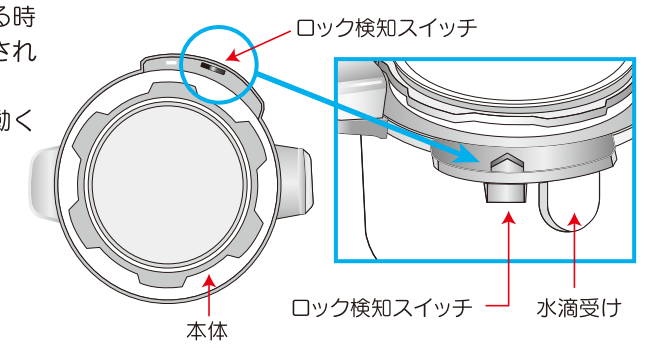


※ロック検知スイッチのカチッと音がするのを確認する。
「ロック検知スイッチ」についての詳しい説明はP13を参照

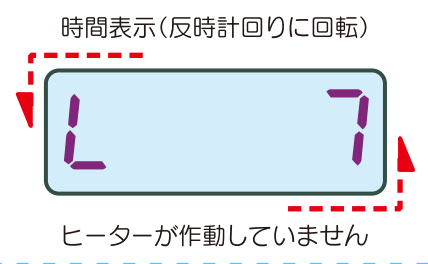
非ロック時の加熱防止機能(ロック検知スイッチ)について

①本製品にはフタが完全にロックされている時以外は、加熱を停止する安全機能が内蔵されています。ロック検知スイッチが上下にスムーズに動くことを確認してください。

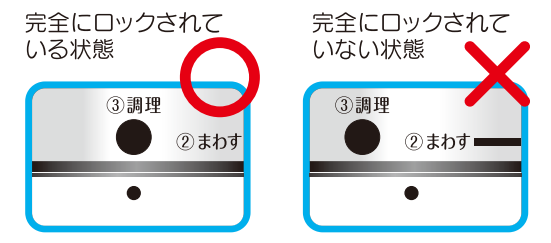
注意 ロック検知スイッチの周囲に付いた汚れや調理カスは、こまめに綿棒で拭き取ってください。ロック検知スイッチが正常に動作しないと、フタをしっかり閉めていても、加圧が始まらない可能性があります。



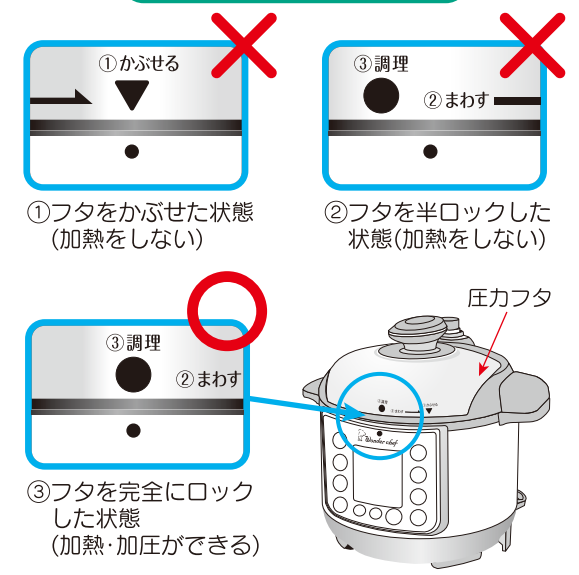
②安全機能作動時はブザー音が鳴り、時間表示がくるくる回ります。この間はヒーターが作動せず、調理を始めることができません。



③上記の【フタの閉め方】①・②の手順に従ってフタを完全にロックしてから、圧力キーで加圧時間を設定し、調理スタートキーを押してください。



圧力フタを使用する場合



圧力フタを使用しない場合

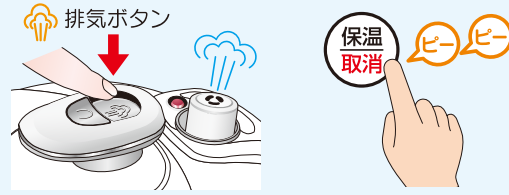


電気圧力鍋・OEDG30/OEDG40の【フタの閉め方・フタの開け方】の詳しい手順はP32~P35を参照

3.0ℓ OEDG30

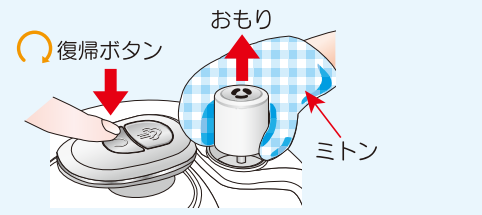
1 保温/取消キーを押し、排気ボタンを押して蒸気を抜く

フロートが下がっていることを確認した後、保温/取消キーを押し、保温を終了して排気ボタンを押し、蒸気を完全に排出する。



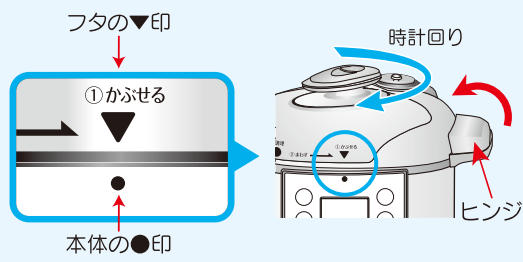
2 おもりを外して、復帰ボタンを押す

完全に蒸気が抜けたことを確認し、ミトンを はめておもりを外し、復帰ボタンを押す。



3 フタを回す

ヒンジが倒れていることを確認し、本体 取っ手とフタ取っ手 をしっかり持ち、フタを時計回りに回し、フタの▼印と本体の●印を合わせてフタを開ける。



4 フタを開ける

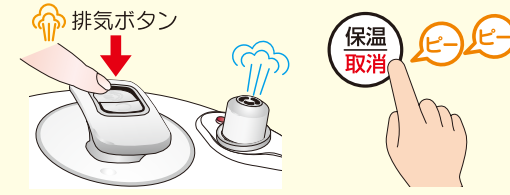
本体取っ手とフタ取っ手を持って、フタを開ける。



4.0ℓ OEDG40

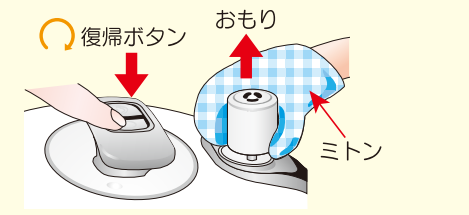
1 保温/取消キーを押し、排気ボタンを押して蒸気を抜く

フロートが下がっていることを確認した後、保温/取消キーを押し、保温を終了して排気ボタンを押し、蒸気を完全に排出する。



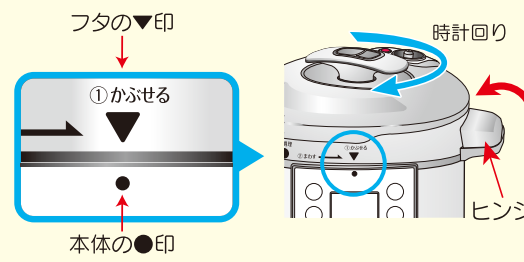
2 おもりを外して、復帰ボタンを押す

完全に蒸気が抜けたことを確認し、ミトンを はめておもりを外し、復帰ボタンを押す。



3 フタを回す

ヒンジが倒れていることを確認し、本体 取っ手とフタ取っ手 をしっかり持ち、フタを時計回りに回し、フタの▼印と本体の●印を合わせてフタを開ける。



4 フタを開ける

本体取っ手とフタ取っ手を持って、フタを開ける。



使いこなせば、簡単・便利!

電気圧力鍋の使い方 シミュレーション

1 メニューが決まれば 電気圧力調理の開始!

具材の大きさは揃えて…
煮汁は少なめに…
味付けは薄めに…
調理時間はクッキングブックを参考に…

2 内がまに規定量の具材を入れ本体にセット

調味液は混ぜてから入れる

3 フタをかぶせる

4 フタを閉める

フタの●印と本体の●印が合う位置まで、フタを回しヒンジを倒す

5 おもりをセットし、復帰ボタンを押して器具用プラグと電源プラグを差し込む

6 圧力調理キーを押し、⊖ ⊕ キーで時間をセット

7 調理スタートキーを押す 加熱調理→圧力調理へ

● → 圧力ランプ点灯

8 設定時間が終了すると液晶画面の表示が変わる

液晶画面

9 約5分～30分で調理完了を音でお知らせ フロートが下がる

10 自動保温になり、液晶画面の表示が変わる

※1時間経過後の表示

11 保温/取消キーを押し、排気ボタンを押す

排気ボタンを押して蒸気を完全に排出する

12 おもりを外して復帰ボタンを押す

13 フタを開ける

フタの▼印と本体の●印が合う位置まで、時計回りに回す

14 調理物を取り出し、器具用プラグ・電源プラグを抜く

15 使用後は毎回お手入れ

追加熱キーで作置ききの 温め直しも簡単!

圧力キーやオートキーで 簡単調理!

加熱と保温を自動調節!

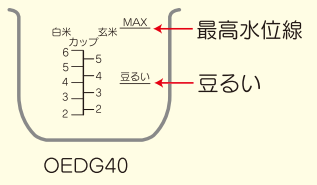
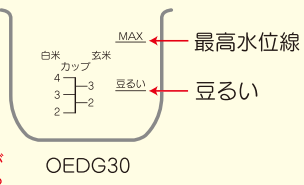
※このシミュレーションの表記は3ℓ(OEDG30)を基本にしています。4ℓ(OEDG40)の場合は参考にしてください。

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

1 内がまに材料を入れる

材料・調味液は右記の目盛以上に入れない。

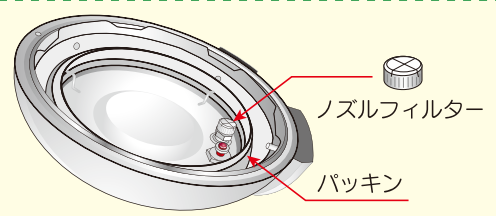
調味液は混ぜてから入れる



警告 豆類・麺類などの調理中に膨張するものや、お粥のように泡が出やすいものは、水・食材を合わせて内がまの容量の1/3未満の量(内がまの内側の「豆のい」未満)で使用してください。

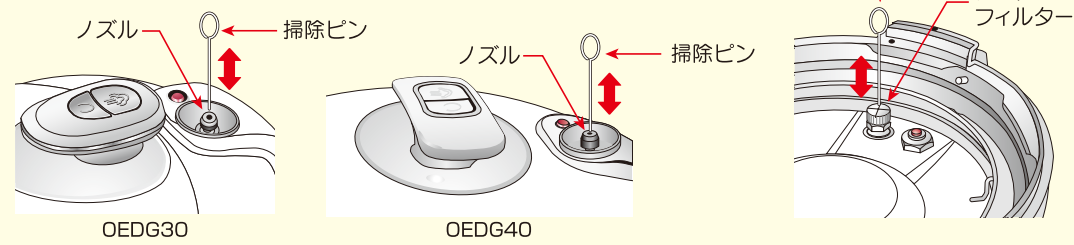
2 フタにパッキン・ノズルフィルターが、確実についていることを確認する

「パッキンの取り付け」の詳しい手順は、P32を参照



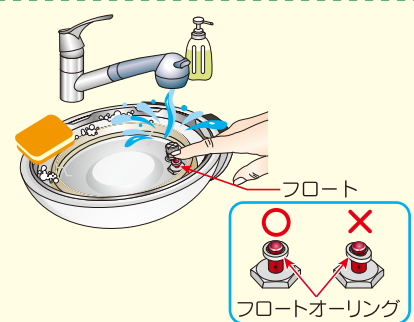
3 ノズル・ノズルフィルターの穴が詰まっていないか確認する

ご使用前は必ず、付属の掃除ピンで詰まりがないか確認してください。



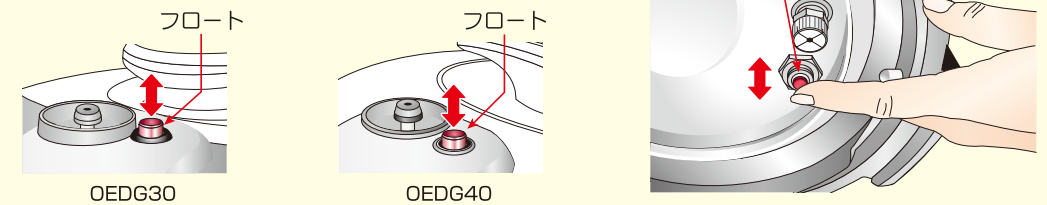
4 フロートに異物をはさまっていないか、フロートオーリングが斜めになっていないか確認する

異物をはさまっている時は、柔らかいスポンジで洗って取り除く。異物が取れない時はお湯を流しながら、上下にフロートを動かして内部に溜まった汚れを洗い流す。フロートオーリングが斜めになると、隙間に異物が入ったり、フロートからの蒸気漏れの原因となります。オーリングが水平になるようにしてください。



5 フロートが上下にスムーズに動くことを確認する

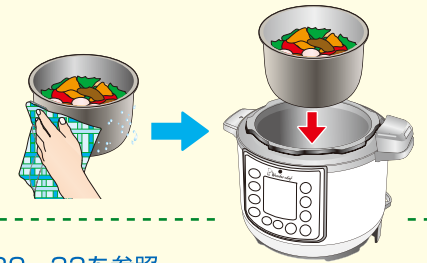
フタの裏側からフロートを指で押し上げた後指を離し、スムーズに上下するか確認する。



6 材料を入れた内がまを本体にセットする

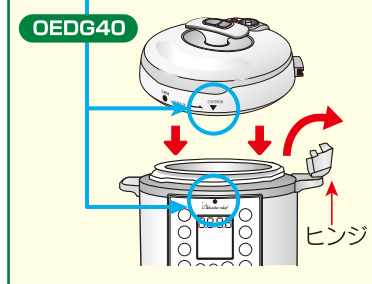
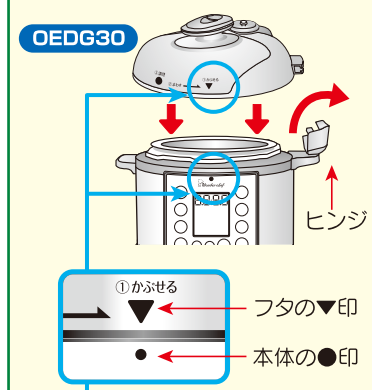
内がまの周囲に付いた水滴や異物を取ってから本体にセットする。

警告 内がまを本体にまっすぐ入れ、傾いていないか、確認してください。

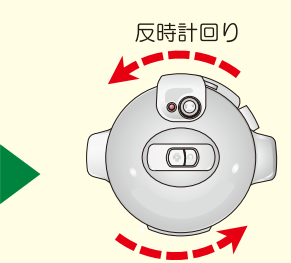
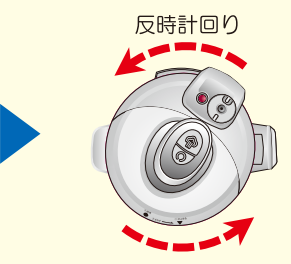


7 フタを閉める 「フタを閉める」の詳しい手順はP32~33を参照

①ヒンジを開いて、フタの▼印と本体の●印を合わせて、フタを垂直に置く。

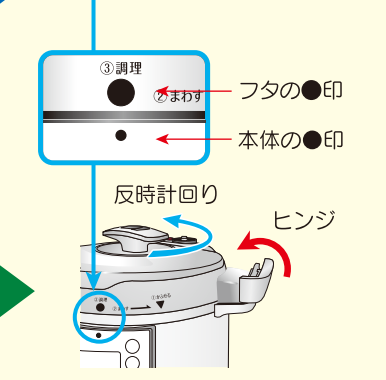


②本体取っ手とフタ取っ手をしっかり持ち、フタを反時計方向に止まるまで回し、フタ●印と本体の●印を合わせる。



警告 フタが斜めになったり、本体に正常に乗せられていない場合は回転しにくくなりますので、強引に回したりしないでください。変形や故障の原因となります。

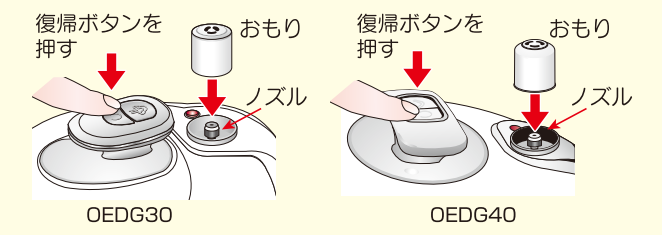
③本体取っ手のヒンジをフタ側にたおす。



警告 フタをしっかり閉めずに加熱をすると、蒸気や水分が漏れ、故障の原因となります。

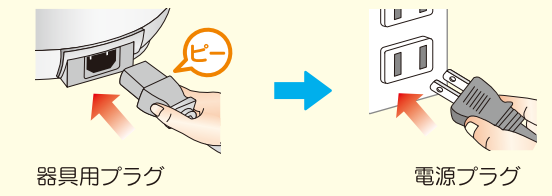
8 おもりをセットする

おもりはノズルにまっすぐ入れ、指で押さえてセットし、復帰ボタンを押す。



9 電源コードを差し込む

器具用プラグを本体に接続してから、電源プラグをコンセントに差し込む。

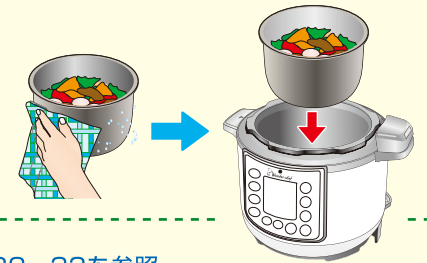


※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

6 材料を入れた内がまを本体にセットする

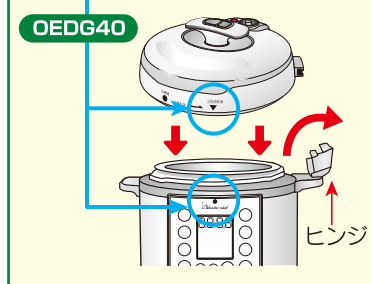
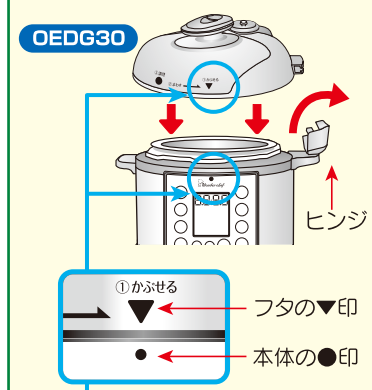
内がまの周囲に付いた水滴や異物を取ってから本体にセットする。

警告 内がまを本体にまっすぐ入れ、傾いていないか、確認してください。

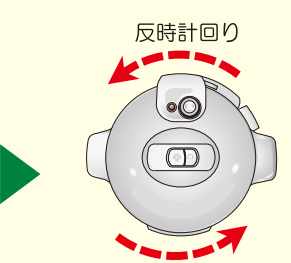
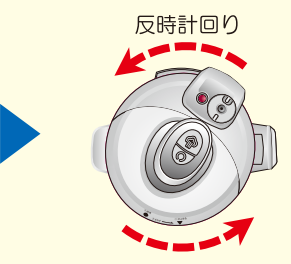


7 フタを閉める 「フタを閉める」の詳しい手順はP32~33を参照

①ヒンジを開いて、フタの▼印と本体の●印を合わせて、フタを垂直に置く。

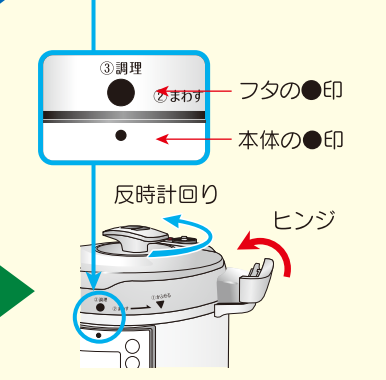


②本体取っ手とフタ取っ手をしっかり持ち、フタを反時計方向に止まるまで回し、フタ●印と本体の●印を合わせる。



警告 フタが斜めになったり、本体に正常に乗せられていない場合は回転しにくくなりますので、強引に回したりしないでください。変形や故障の原因となります。

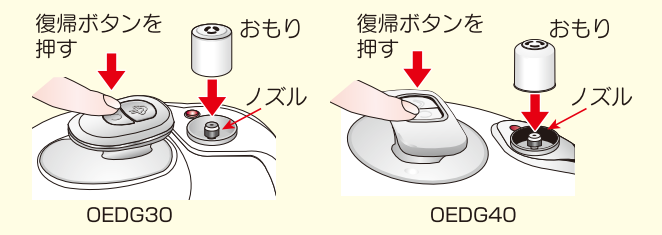
③本体取っ手のヒンジをフタ側にたおす。



警告 フタをしっかり閉めずに加熱をすると、蒸気や水分が漏れ、故障の原因となります。

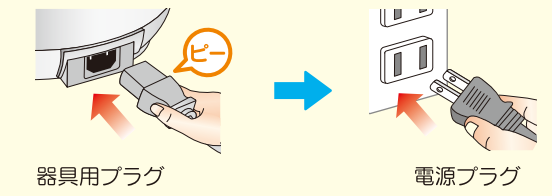
8 おもりをセットする

おもりはノズルにまっすぐ入れ、指で押さえてセットし、復帰ボタンを押す。

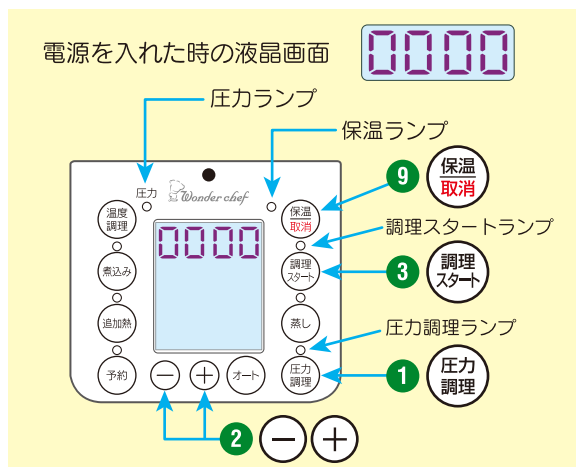


9 電源コードを差し込む

器具用プラグを本体に接続してから、電源プラグをコンセントに差し込む。

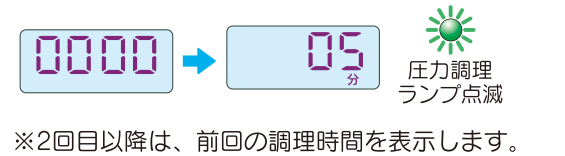


※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

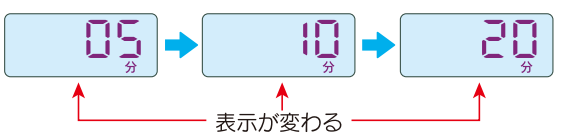


P16~17・①~⑨の手順で〈準備〉ができた

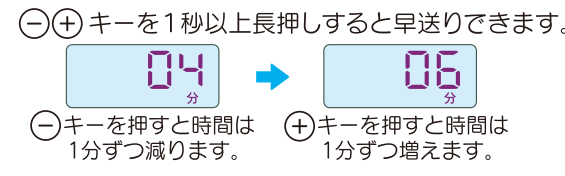
1 圧力調理キーを押す
 圧力調理キーを押すと液晶画面が【0000】から【05分】に切り替わります。



※2回目以降は、前回の調理時間を表示します。
 圧力調理キーを繰り返し押すと【05分→10分→20分】の順で加圧時間が設定できます。



2 圧力調理時間をセットする
 圧力調理時間を(+)キーで変更します。「クッキングブック」や「加圧時間早見表」を参考に時間を設定してください。時間は1分~59分まで変更できます。



圧力調理キーを押してから、30秒以内にキーで時間を変更してください。30秒以内に時間設定が出来なかった場合は、もう一度手順1からやり直してください。

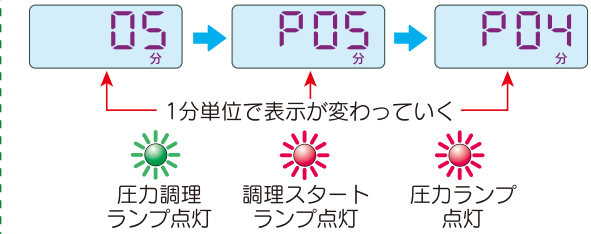
3 調理スタートキーを押す
 調理スタートキーを押すと加熱調理がスタートします。



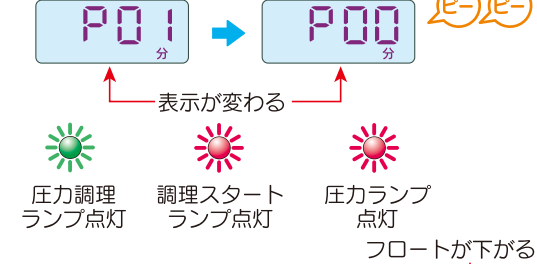
4 加熱調理が進むとフロートが上がる
 加熱調理が進むと、鍋内の温度が上がり加圧され、フロートが上がります。
 圧力が安定する前に、おもりから数分間、蒸気が漏れることがありますが、異常ではありません。



5 圧力調理が始まる
 圧力が上がるまで「表示時間」は変わりません。鍋の中が所定圧に達した時「設定時間」の調理が始まります。
 同時に液晶表示に設定された「設定時間」が、1分単位でカウントダウンします。



6 設定時間が終了したら
 設定時間が終了したら、液晶表示が【P01分】→【P00分】に変わります。

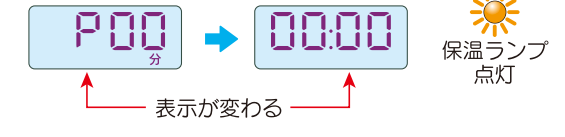


※「設定時間」が終了後、約5分~30分程度でフロートが下がります。

警告 フロートが下がるまでは、圧力が残っていて危険なので、おもりやフタに触れないでください。

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

7 調理が終了したら
 調理が終了したらブザー音が5回鳴り、液晶表示が【P00分】→【00:00】に変わります。保温ランプが点灯します。



8 保温経過時間の表示
 「保温」表示になった後、1分単位で保温時間を表示します。(最大12時間まで保温)



※保温のままにしておくと、30分に1回ブザー音でお知らせ。
 ※保温を中止する時は「保温取消」キーを押してください。

9 保温/取消キーを押す
 保温取消キーを押して保温を終了する。

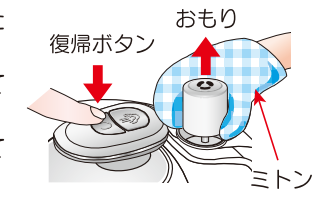
警告 調理が終了しても、保温ヒーターは入ったままです。必ず、保温/取消キーを押して保温を切ってください。

10 排気ボタンを押して蒸気を抜く
 フタを開ける前に、排気ボタンを押して蒸気を完全に排出することで、安全にフタを開けることができます。



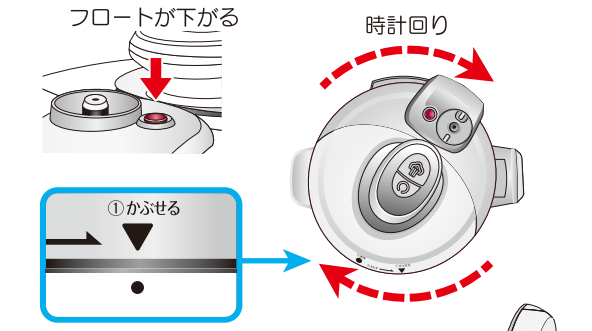
警告 おもりの穴や周辺から、圧力と一緒に蒸気が噴出することがありますので、顔などを近づけないでください。やけどの恐れがあります。

11 おもりを外して、復帰ボタンを押す
 完全に蒸気が抜けたことを確認したら、ミトンなどはめてからおもりを外し、復帰ボタンを押してください。



警告 圧力が残っている時におもりをはずすと、煮汁などが噴き出し、やけどの恐れがあります。

12 フタを開ける
 ①必ずフロートが下がっていることを確認し、本体取っ手とフタ取っ手をしっかり持ち、時計回りにフタを回転させます。



②フタの▼印と本体の●印が合う位置までフタを回転させ、ヒンジが倒れていることを確認してからフタを開けてください。

注意 必ずフロートが下りていることを確認してください。
 注意 フタを開ける際に立ち上る蒸気で、やけどをしないようご注意ください。
 注意 金属部分が熱くなっていますので、やけどに注意してください。

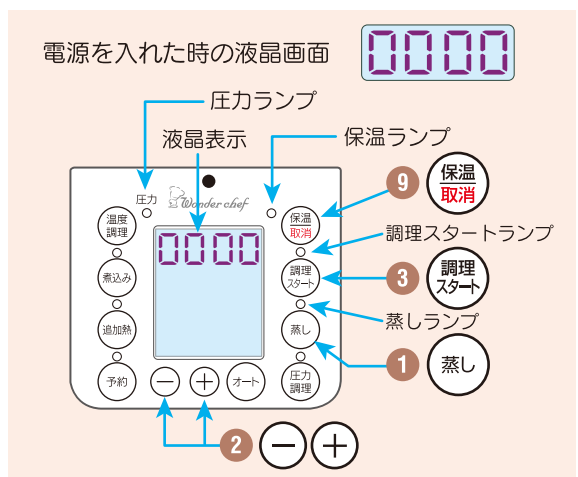
13 調理物を取り出して、使用後はお手入れ

- 長くご使用いただくため、長時間の保温はお控えください。
- 調理が終わったら、なるべく早く別の容器に移しかえることで、内がまのコーティングを長く維持することができます。
- 使用後は、電源プラグ・器具用プラグを外し、調理を終了します。
- その日のうちにお手入れすることで、いつまでも清潔にご使用いただけます。

「お手入れのしかた」の詳しい手順はP30を参照

注意 内がまは熱いです。必要に応じてミトン等をご使用ください。

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。



3 調理スタートキーを押す

キーを押すと加熱調理がスタートします。
蒸しランプ点灯 調理スタートランプ点灯

4 加熱調理が進むとフロートが上がる

加熱調理が進むと、鍋内の温度が上がり加圧され、フロートが上がります。
圧力が安定する前に、おもりから数分間、蒸気が漏れることがありますが、異常ではありません。

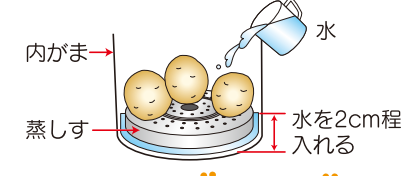
蒸しランプ点灯 調理スタートランプ点灯 圧力ランプ点灯

P18~19・「圧力調理のしかた」〈圧力調理コース〉の5~13の手順で行ってください。

- 5 圧力調理が始まる
 - 6 設定時間が終了したら
 - 7 調理が終了したら
 - 8 保温経過時間の表示
 - 9 保温/取消キーを押す
 - 10 排気ボタンを押して蒸気を抜く
 - 11 おもりを外して、復帰ボタンを押す
 - 12 フタを開ける
 - 13 調理物を取り出して、使用後はお手入れ
- 「お手入れのしかた」の詳しい手順はP30を参照

蒸し料理の場合

「蒸し料理」をする場合、内がまの底から2cm程度(3.0ℓ鍋で500ml程度、4.0ℓ鍋で700ml程度)の水を張り、内がまの中に蒸しすを置き、その上に具材を置いてください。その時、食材が内がまの縁より高くならないよう注意してください。
※「蒸し料理」はレシピに沿ってご使用ください。



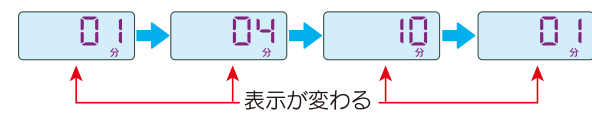
P16~17・①~⑨の手順で〈準備〉ができたなら

1 蒸しキーを押す

キーを1回押すと液晶画面が【0000】から【01分】に切り替わります。

※2回目以降は、前回の調理時間を表示します。

キーを繰り返し押すと【05分→04分→10分→01分】の順で加圧時間が設定できます。



2 圧力調理時間をセットする

圧力調理時間を(−)(+)キーで変更します。「クッキングブック」や「加圧時間早見表」を参考に時間を設定してください。時間は1分~59分まで変更できます。

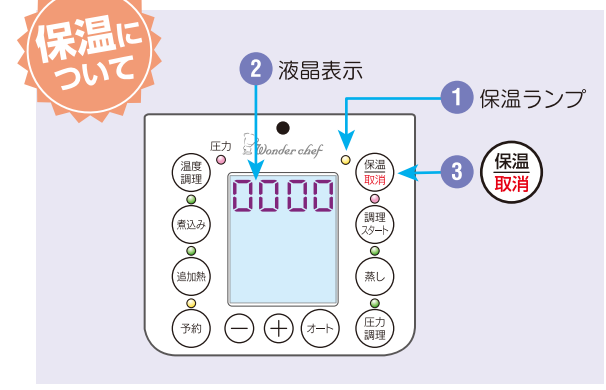
(−)(+)キーを1秒以上長押しすると早送りできます。

(−)キーを押すと時間は1分ずつ減ります。(+)キーを押すと時間は1分ずつ増えます。



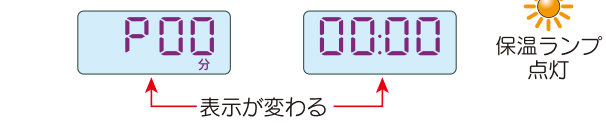
蒸しキーを押してから、30秒以内に(−)(+)キーで時間を変更してください。30秒以内に時間設定が出来なかった場合は、もう一度手順1からやり直してください。

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。



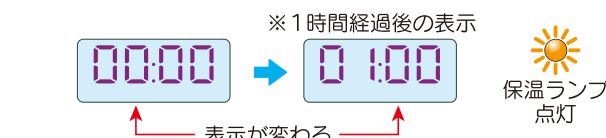
1 調理が終了したら

各種調理が終了したら、ブザー音が5回鳴り、保温ランプが点灯します。液晶表示が【P00】→【00:00】に変わり、自動的に「保温」に切り替わります。

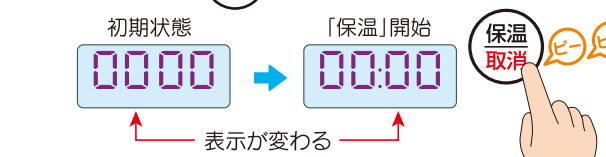


2 保温経過時間の表示

「保温」表示になった後、1分単位で保温時間を表示します。(最大12時間まで保温)

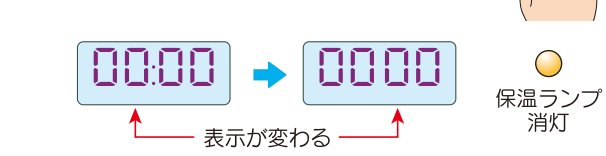


※初期状態で「保温」キーを押すと「保温」になります。



3 保温を取り消す

「保温」を取り消す時は、「保温取消」キーを押してください。



調理が終了しても、保温ヒーターは入ったままです。必ず、保温/取消キーを押して保温を切ってください。

4 保温は補助的機能

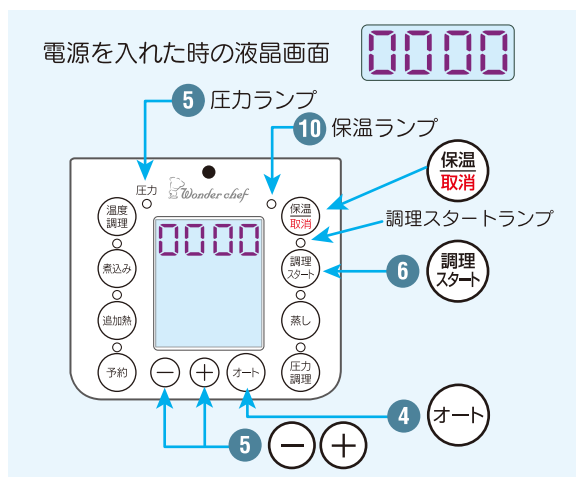
- 保温は補助的な機能です。調理終了後は出来るだけ早く、お料理を別の容器に取り出してお召し上がりください。
- 長時間の保存はしないでください。
- 仕様：保温温度約70℃
最長12時間保温
(12時間経過後、自動off)

時間設定ができない為、保温での調理はお控えください。

やむを得ず急いでフタを開ける場合は

1. 保温/取消キーを押す
 2. 器具用プラグ・電源プラグを抜く
 3. おもりに乾いた布をかけ、排気ボタンを押す
注意 排気ボタンを押すと、おもりや布の周辺から蒸気が勢よく噴出しますので、やけどなどには十分ご注意ください。
 4. おもりを外し、復帰ボタンを押す
フロートが下がり、完全に蒸気が抜けたことを確認したら、ミトンをはめておもりを外し、復帰ボタンを押す。
 5. フタを開ける
時計回り
- 安全に注意してフタを開けてください。「フタを開ける」の詳しい手順はP34を参照

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。



1 お米をはかり、別容器で洗う

付属の計量カップでお米をはかり、別容器でお米を洗ってください。
※計量カップ：1カップ(約180ml)

カップ すりきり

注意 内がまでお米を洗うと、鍋のフッ素樹脂が剥がれる原因になります。

2 お米を内がまにうつし、水加減をする

3.0ℓで、白米は2~4合、玄米は2~3合
4.0ℓで、白米は2~6合、玄米は2~5合
目盛りは目安です。計量カップで正確にお米と水をはかってください。
お好みにより水加減を調整してください。

3 内がまの底や側面に付いた水滴や米粒をふき取る

注意 センサーや内がまの底に汚れがつくと故障の原因になります。

P16~17・「圧力調理のしかた」<準備>の②~⑨の手順で準備を行ってください。

- フタにパッキン・ノズルフィルターが確実に付いていることを確認する
- ノズル・ノズルフィルターの穴が詰まっていないか確認する
- フロートに異物がかさまっているか確認する
- フロートが上下にスムーズに動くことを確認する
- 材料を入れた内がまを本体にセットする
- フタを閉める
- おもりをセットする
- 器具プラグ電源プラグを差し込む

※液晶画面の表示が回転している時は、もう一度フタを閉め直してください。

完全にフタがロックしていないと、ヒーターが作動しません。
「ロック検知スイッチ」P13参照

4 オートキーを押しメニューを決める

オートキーを押すと液晶画面が切り替わります。

白米	05	カレー	10
玄米	30	おでん	05
赤飯	01	スープ	05
角煮	10	黒豆	20
肉じゃが	03	さかな	40

5 〇⊕キーで仕上り調整

オートキーで「調理」を選択し、〇⊕キーで仕上がり調整ができます。

※白米の場合 → 05 標準
 ⊖キーで → 04 かため
 ⊕キーで → 06 やわらかめ

P23の【仕上り調整時間表】を参照

表示時間の変更は、「白米」などのオートキーを押してから、30秒以内にキーで時間を変更してください。30秒以内に時間設定が出来なかった場合は、もう一度手順④からやり直してください。

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

6 調理スタートキーを押す

キーを押すと加熱調理がスタートします。

調理スタートランプ点灯

7 加熱調理が進むとフロートが上がる

加熱調理が進むと、鍋内の温度が上がり加圧され、フロートが上がります。

圧力が安定する前に、おもりから数分間、蒸気が漏れることがあります。異常ではありません。

8 圧力調理が始まる

圧力が上がるまで「表示時間」は変わりません。鍋の中が所定圧に達した時「設定時間」の調理が始まります。

同時に液晶表示に設定された「設定時間」が、1分単位でカウントダウンします。(P18参照)
※例：白米5分を選択し、設定した場合

1分単位で表示が変わっていく

調理スタートランプ点灯 圧力ランプ点灯

9 設定時間が終了したら

設定時間が終了したら、液晶表示が【P01】→【P00】に変わります。

表示が変わる

圧力調理ランプ点灯 調理スタートランプ点灯 圧力ランプ点灯

フロートが下がる

※「設定時間」が終了後、約5分~30分程度でフロートが下がります。

警告 フロートが下がるまでは、圧力が残っていて危険なので、おもりやフタに触れないでください。

10 調理が終了したら

調理が終了したらブザー音が5回鳴り、液晶表示が【P00】→【00:00】に変わります。保温ランプが点灯します。

表示が変わる

保温ランプ点灯

P19・「圧力調理のしかた」<圧力調理コース>の⑧~⑪の手順で行ってください。

- 保温経過時間の表示
- 保温/取消キーを押す
- 排気ボタンを押して蒸気を抜く
- おもりはずして、復帰ボタンを押す

11 フタを開け、ごはんをほぐす

オート圧力調理が終わると、自動的に保温になります。長時間の保温はしないでください。本体から内がまを取り出す時は、やけどをする恐れがありますので、ミトンや鍋つかみ等を使用してください。
「保温について」は、P21を参照

注意 必ずフロートが下りていることを確認してください。

警告 本体から内がまをはずしても、保温ヒーターは入ったままです。フタを開ける前に保温取消キーを押して保温を切ってください。

注意 内がまは熱くなっていますので、必要に応じてミトン等をご使用ください。

12 使い終わったら

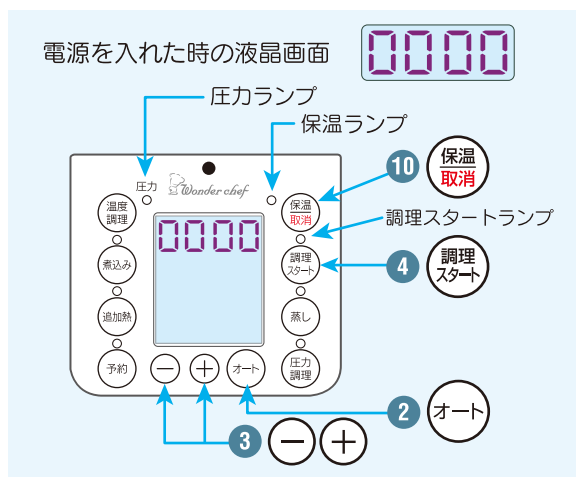
器具用プラグ・電源プラグを外します。

使用後は、いつまでも清潔にご使用いただくために、必ずその日のうちにお手入れしてください。
「お手入れのしかた」の詳しい手順はP30を参照

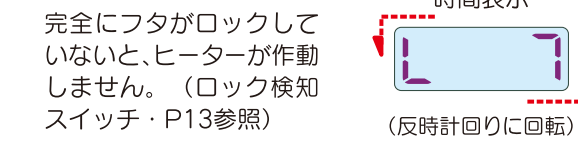
■仕上り調整時間表 (単位/分)

メニュー	やわらか/仕上げ	かため/仕上げ	標準/仕上げ
白米	6	4	5
玄米	40	20	30
赤飯	4	2	1
角煮	12	8	10
肉じゃが	5	2	3
カレー	15	8	10
おでん	8	3	5
スープ	10	2	5
黒豆	25	15	20
さかな	50	30	40

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

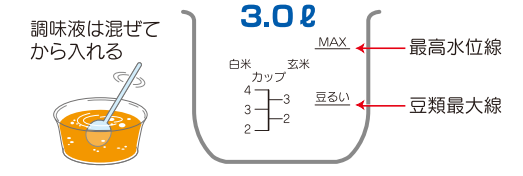


※液晶画面の表示が半時計回りに回転している時は、フタを閉め直してください。



1 内がまに材料を入れる

材料・調味液は下記の図の目盛以上に入れないでください。調味液は混ぜてから入れてください。



警告 豆類・麺類などの調理中に膨張するものや、お粥のように泡が出やすいものは、水・食材を合わせて、内がまの容量の1/3未満の量(内がまの内側の「豆類最大線」)で使用してください。

- P16~17・「圧力調理のしかた」<準備>の②~⑨の手順で準備を行ってください。
- フタにパッキン・ノズルフィルターが確実に付いていることを確認する
 - ノズル・ノズルフィルターの穴が詰まっていないか確認する
 - フロートに異物がはさまっていないか確認する
 - フロートが上下にスムーズに動くことを確認する
 - 材料を入れた内がまを本体にセットする
 - フタを閉める
 - おもりをセットする
 - 器具用プラグ電源プラグを差し込む

2 オートキーを押しメニューを決める

オートキーを押すと液晶画面が切り替わります。

0000	白米	05	カレー	10
電源を入れた時の液晶画面	玄米	30	おでん	05
	赤飯	01	スープ	05
	角煮	10	黒豆	20
	肉じゃが	03	さかな	40

※カレー(標準)の場合の表示例
0000 → 10分
表示が変わる

3 ー/+キーで仕上り調整

オートキーで「調理」を選択し、ー/+キーで「仕上がり」が調整できます。

※カレーの場合の表示

標準	かため	やわらかめ
10分	08分	15分

「仕上がり」の変更は、「カレー」などのオートキーを押してから、30秒以内に变更してください。30秒以内に設定が出来なかった場合は、もう一度手順②からやり直してください。

P23の【仕上り調整時間表】を参照

4 調理スタートキーを押す

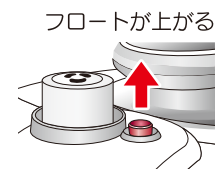
調理スタートキーを押すと「加熱調理」がスタートします。



5 加熱調理が進むとフロートが上がる

加熱調理が進むと、鍋内の温度が上がり加圧され、フロートが上がります。

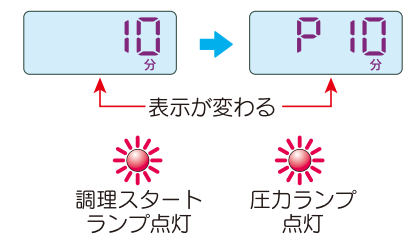
圧力が安定する前に、おもりから数分間、蒸気が漏れることがあります。異常ではありません。



※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

6 圧力調理が始まる

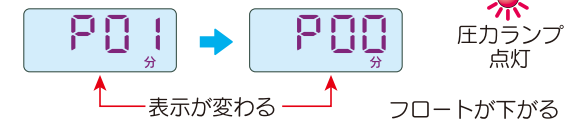
圧力が上がるまで「表示時間」は変わりません。鍋の中が所定圧に達した時「設定時間」の調理が始まります。



同時に液晶表示に設定された「設定時間」が、1分単位でカウントダウンします。(P18参照)
<例>圧力調理時間を5分に設定した場合

7 設定時間が終了したら

「設定時間」が終了したら、液晶表示が【P01】→【P00】に変わります。

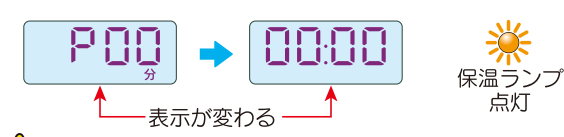


※「設定時間」が終了後、約5分~30分程度でフロートが下がります。

警告 フロートが下がるまでは、圧力が残っていて危険です。おもりやフタに触れないでください。

8 調理が終了したら

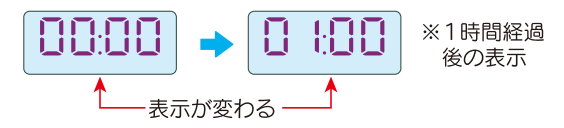
調理が終了したらブザー音が5回鳴り、液晶表示が【P00】→【00:00】に変わります。圧力ランプから、保温ランプに切り替わります。



注意 必ずフロートが下りていることを確認してください。

9 保温経過時間の表示

「保温」表示になった後、1分単位で保温時間を表示します。(最大12時間まで保温)



10 保温/取消キーを押す

保温/取消キーを押して保温を終了する。保温ランプ消灯。
警告 調理が終了しても、保温ヒーターは入ったままです。必ず、保温/取消キーを押して保温を切ってください。

11 排気ボタンを押して蒸気を抜く

フタを開ける前に、排気ボタンを押して蒸気を完全に排出することで、安全にフタを開けることができます。

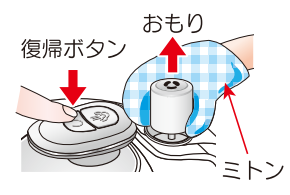
警告 おもりの穴や周辺から、圧力と一緒に蒸気が噴き出すことがありますので、顔などを近づけないでください。やけどの恐れがあります。



12 おもりを外して、復帰ボタンを押す

完全に蒸気が抜けたことを確認したら、ミトン等をはめてからおもりをはずし、復帰ボタンを押してください。

警告 圧力が残っている時におもりをはずすと、煮汁などが噴き出し、やけどの恐れがあります。

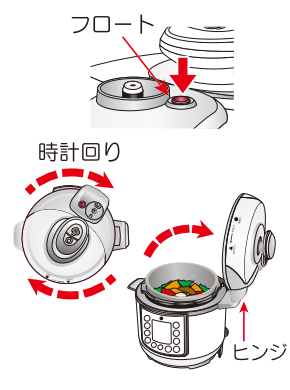


13 フタを開ける

- 必ずフロートが下がっていることを確認し、本体取っ手とフタ取っ手をしっかり持ち、時計回りにフタを回転させます。
- フタの▼印と本体の●印が合う位置までフタを回転させ、ヒンジが倒れていることを確認してからフタを開けてください。

「フタを開ける」の詳しい手順はP34・35を参照

注意 フタを開ける際に立ち上る蒸気で、やけどをしないようご注意ください。内がまや金属部分が熱くなっていますので、やけどに注意してください。必要に応じてミトン等をご使用ください。



14 調理物を取り出して、使用後はお手入れ

- ◎長くご使用いただくため、長時間の保温はお控えください。調理が終わったら、なるべく早く別の容器に移しかえることで、内がまのコーティングを長く維持することができます。
 - ◎使用後は、電源プラグ・器具用プラグを外し、調理を終了します。
 - ◎その日のうちにお手入れすることで、いつまでも清潔にご使用いただけます。
- 「お手入れのしかた」の詳しい手順はP30を参照

ガラス蓋を使用

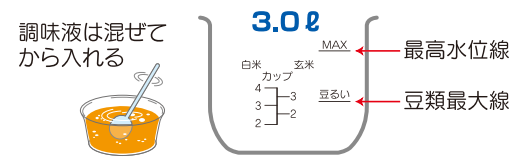
※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。



追加熱調理は【仕上げ調理】する時にお使いください。
必要に応じて、付属のガラス蓋を使用してください。
◎圧力鍋のフタは使用しないでください。

1 内がまに材料を入れる

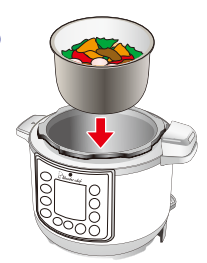
材料・調味液は下記の図の目盛以上に入れないでください。調味液は混ぜてから入れてください。



警告 カレールウなどを入れ、圧力フタを使用での追加熱は、絶対にしないでください。

2 本体に内がまを入れる

内がまの周囲に付いた水滴や異物を取ってから、本体にセットします。



警告 内がまを本体にまっすぐ入れ、傾いていないか、確認してください。

3 ガラス蓋をする

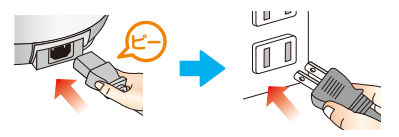
警告 豆類・ジャム・お粥など粘性の高い調理物は、噴きこぼれの恐れがありますので、ガラス蓋を使用しないでください。

警告 圧力フタを使用しないでください。



4 器具用プラグ・電源プラグを差し込む

器具用プラグを本体に接続してから、電源プラグをコンセントに差し込みます。



5 時間を設定する

追加熱 キーを押すと液晶表示が【0000→01分】に変わります。

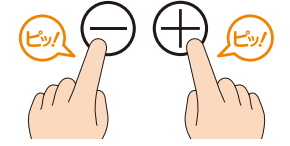
繰り返し押しすると【05分→10分→01分】に変わります。



6 調理時間をセットする

調理時間を⊖⊕キーで設定します。「クッキングブック」を参考に時間を設定してください。時間は1分～59分まで変更できます。⊖⊕キーを1秒以上長押しすると早送りできます。

30秒以内に時間設定が出来なかった場合は、もう一度手順⑥からやり直してください。



7 調理スタートキーを押す

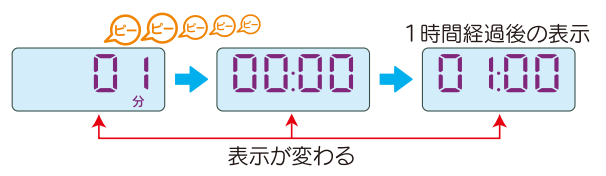
調理スタート キーを押すと追加熱調理がスタートします。スタート後、1分単位で時間がカウントダウンします。

噴きこぼれに注意してください。



8 追加熱調理が終了したら

設定時間が終了したらブザーが5回鳴り、液晶表示が【00:00】に変わります。「保温」ランプが点灯し、自動的に保温を開始します。



保温表示になった後、1分単位で保温時間を表示します。(最大12時間まで保温)

「保温」を中止する時は「保温取消」キーを押してください。

「保温について」の詳しい説明はP21を参照

9 調理物を取り出す

長時間の保温はしないでください。なるべく早めに、別の容器などに移しかえてください。

10 使い終わったら

保温取消 キーを押し、液晶表示が【0000】になっていることを確認して、器具用プラグ・電源プラグを外します。

「お手入れのしかた」の詳しい手順はP30を参照

ガラス蓋を使用

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。



【温度調理】で調理する時は、25～70℃で定温調理ができます。必要に応じて、付属のガラス蓋または圧力フタを使用してください。

1 内がまに材料を入れる

材料・調味料は目盛以上に入れないでください。調味液は混ぜてから入れてください。

2 本体に内がまを入れる

内がまの周囲に付いた水滴や異物を取ってから、本体にセットします。

警告 内がまを本体にまっすぐ入れ、傾いていないか、確認してください。

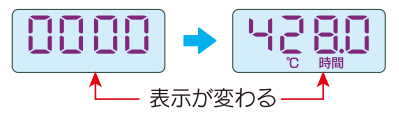
3 ガラス蓋または圧力フタをする

4 器具用プラグ・電源プラグを差し込む

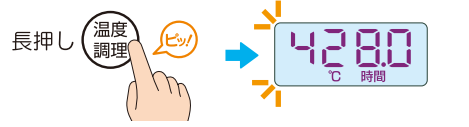
器具用プラグを本体に接続してから、電源プラグをコンセントに差し込みます。

5 温度を設定する

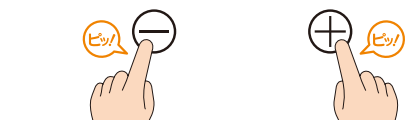
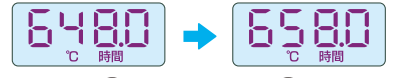
温度調理 キーを押すと液晶表示が前回の調理温度・時間に変わります。繰り返し押しすと3種の設定に変わります。



温度調理 キーを長押しすると「設定温度」が点滅し、⊖⊕キーで温度を25℃～70℃まで1℃単位で変更することができます。



設定温度：65℃の場合



「温度設定」ができたなら、もう一度「温度調理」キーを長押しすると時間設定に戻ります。

※「設定温度」は「クッキングブック」に沿って設定してください。

6 調理時間をセットする

調理時間を⊖⊕キーで設定します。「クッキングブック」を参考に時間を設定してください。時間は1分～59分まで1分単位で変更できます。1時間以降は、9.5時間まで30分単位で設定でき、10時間以降は1時間ごとに最大99時間まで時間設定することができます。⊖⊕キーを1秒以上長押しすると早送りできます。

7 調理スタートキーを押す

調理スタート キーを押すと温度調理がスタートします。スタート後、設定温度に近くなるとブザー音が鳴り、カウントダウンが始まります。

⊖⊕キーを押すと、±5℃の範囲で温度を調整できます。

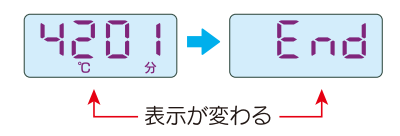
温度調理 キーを押すと、現在の温度が5秒間表示されます。

※HIGH℃が表示された場合、調理物の温度が設定温度に対して高すぎます。保温/取消キーを押し、冷ましてから再度調理スタートキーを押してください。

8 設定時間が終了したら

「設定時間」が終了したらブザーが5回鳴り、液晶表示が【End】に変わります。

※自動的に「保温」にはなりません。



設定時間終了後、「保温取消」キーを押して、調理を終了してください。

【End】表示のままにしておくと、30分に1回、「調理忘れ防止」のため、ピーピーという音が鳴ります。音を止めるには、「保温取消」キーを押してください。

9 調理物を取り出す

なるべく早めに、別の容器などに移しかえてください。

10 使い終わったら

液晶表示が【0000】になっていることを確認して、器具用プラグ・電源プラグを外します。

「お手入れのしかた」の詳しい手順はP30を参照

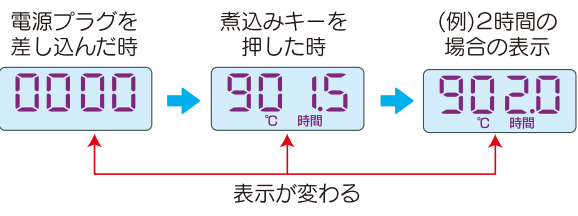
※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

煮込み 煮込みキーで調理する時は、約70～99℃の範囲で定温調理ができます。必要に応じて、付属のガラス蓋または圧力フタを使用してください。

- 1 内がまに材料を入れる
- 2 本体に内がまを入れる
- 3 ガラス蓋または圧力フタをする
- 4 器具用プラグ・電源プラグを差し込む

5 煮込みキーを押し、調理時間を設定する

煮込みキーを押すと液晶表示が前回の調理温度・時間になります。繰り返し押すと3種の設定に変わります。調理時間を \ominus / \oplus キーで設定します。「クッキングブック」を参考に時間を設定してください。時間は1分～59分、1～99時間で変更できます。



6 調理温度を設定する

時間設定が完了したら、煮込みキーを3秒以上押しと調理温度の設定ができます。温度表示が点滅し、煮込みキーを押すごとに【70℃】【85℃】【90℃】の順で設定温度を変更することができます。

※温度表示が点滅している間にキーで70℃～99℃の間で設定温度の調整が可能です。

※ \ominus / \oplus キーで、開始温度±5℃で設定温度の調整が可能

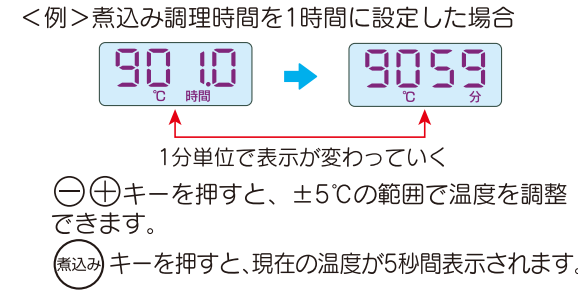
30秒以内に時間設定が出来なかった場合は、もう一度手順⑤からやり直してください。

7 調理スタートキーを押す

調理スタートキーを押すと加熱調理がスタートします。

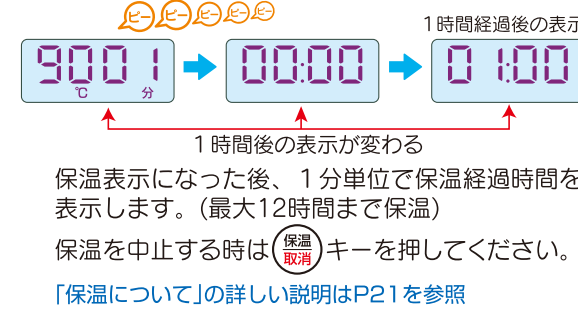
8 煮込み調理の始まり

通常加熱で、鍋内部が設定温度に達すると、煮込み調理の始まりです。表示が切り替わってブザー音が鳴り、カウントダウンが始まります。



9 設定時間が終了したら

設定時間が終了したらブザーが5回鳴り、液晶表示が【00:00】に変わります。「保温」ランプが点灯し、自動的に保温を開始します。



10 調理物を取り出す

長時間の保温はしないでください。なるべく早めに、別の容器などに移しかえてください。

11 使い終わったら

保温取消キーを押し液晶表示が【0000】になっていることを確認して、器具用プラグ・電源プラグを外してください。

「お手入れのしかた」の詳しい手順はP30を参照

※料理の作り方は別冊のクッキングブックをご参照ください。

予約 予約タイマーは、1時間～24時間の調理開始予約が可能です。(出来上がり時間の予約ではありません。)

◎追加熱・煮込み調理では使用しないでください。

注意 予約タイマーは、白米・玄米・赤飯以外に使用しないでください。調理物がタイマー設定時間以内に腐る場合があります。

炊飯予約の場合

- P22・「オート圧力調理のしかた」<白米・玄米の炊き方>の①～③の手順で炊飯の準備をする
- ① お米をはかり別容器で洗う
 - ② お米を内がまにうつし水加減をする
 - ③ 内がまの底や側面に付いた水滴や米粒をふき取る
- P16～17・「圧力調理のしかた」<準備>の②～⑨の手順で準備をする
- ② フタにパッキン・ノズルフィルターが確実に付いていることを確認する
 - ③ ノズル・ノズルフィルターの穴が詰まっていないか確認する
 - ④ フロートに異物がはさまっていないか確認する
 - ⑤ フロートが上下にスムーズに動くことを確認する
 - ⑥ 材料を入れた内がまを本体にセットする
 - ⑦ フタを閉める
 - ⑧ おもりをセットする
 - ⑨ 器具用プラグ電源プラグを差し込む

1 オートキーを押す

オートキーを押すと液晶表示が切り替わります。

表示が変わる

2 メニューをセットする

オートキーを押して、調理メニューをセットする。

※白米の場合：液晶表示は【05】

3 予約キーを押し、調理開始時間をセット

予約キーを押し、 \ominus / \oplus キーで調理時間をセットします。

0.5時間から10時間までは、30分単位で最大12時間までセットできます。

※予約1時間の場合：【1.0 05】

表示が変わる

4 調理スタートキーを押す

調理スタートキーを押すと予約タイマーがスタートします。スタート後、30分単位で時間がカウントダウンします。

5 予約設定時間に加熱開始

自動的に「タイマー表示」から「圧力表示」に変わります。

※白米の場合：液晶表示は【05】

P18・「圧力調理のしかた」<圧力調理コース>の④～⑤の手順で自動的に調理が進む

- ④ 加熱調理が進むとフロートが上がる
- ⑤ 圧力調理が始まる

6 設定時間が終了したら

調理が終了したらブザー音が5回鳴り、液晶表示が【00:00】に変わります。「圧力」表示から「保温」に変わり、自動的に保温を開始します。保温表示になった後、1分単位で保温経過時間を表示します。(最大12時間まで保温)

※保温を中止する時は、保温取消キーを押してください。

P19・「圧力調理のしかた」<お好みコース>の⑧～⑩の手順でフタを開ける

- ⑧ 保温経過時間の表示
- ⑨ 保温/取消キーを押す
- ⑩ 排気ボタンを押して蒸気を抜く

7 フタを開け、ごはんをほぐす

圧力調理が終わると、自動的に保温になります。長時間の保温はしないでください。本体から内がまを取り出す時は、やけどをする恐れがありますので、ミトンや鍋つかみなどを使用してください。

本体から内がまをはずしても、保温ヒーターは入ったままです。フタを開ける前に保温/取消キーを押して保温を切ってください。

警告 「保温」についての詳しい手順はP21を参照

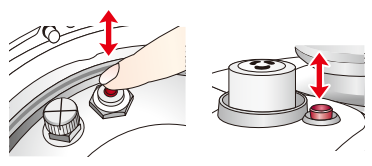
注意 ※ご使用後は、いつまでも清潔にご使用いただくために、必ずその日のうちにお手入れしてください。

電源コードを抜き、本体が冷めてからお手入れしてください。

フロート

柔らかいスポンジで洗う


異物をはさまっている時は、柔らかいスポンジで洗って取り除く。異物が取れない時は、お湯を流しながら上下にフロートを動かして、内部に溜まった汚れを洗い流してください。



フタ

台所用中性洗剤で洗う

パッキンを取り外し、つけ置きでの丸洗いは避け、台所用中性洗剤をつけたスポンジを使い、プラスチックと金属のすきまに洗剤が入らないように、フタ裏面の汚れを落としてから、洗い流してください。



内がま

台所用中性洗剤で洗う

内がまは洗いおけ代わりに使わないでください。樹脂被膜はがれる原因になります。

熱板・センサー

固く絞ったふきんで拭く

異物のこびり付きには、台所用中性洗剤を付けたスポンジで軽く磨き、固く絞ったふきんで拭いてください。

本体

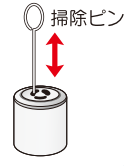
洗わないでください

本体を水につけたり、水をかけないでください。感電、火災の原因になります。洗剤は使わず、固く絞ったふきんで拭いてください。

おもり(蒸気排出口)

掃除ピンで異物を取り除く

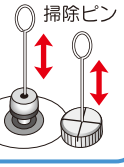
おもりに料理カスが詰まった場合は、付属の掃除ピンで異物を取り除いてください。中のシリコンは傷付けしないでください。丸洗いできます。



ノズル・ノズルフィルター

掃除ピンで異物を取り除く


ノズルやノズルフィルターに料理カスが詰まった場合は、付属の掃除ピンで異物を取り除いてください。ノズルフィルターは丸洗いしてください。



パッキン

台所用中性洗剤で洗う


取り外してお湯につけた後、台所用中性洗剤で洗ってください。パッキンは無理な力で引っ張らないでください。パッキンが傷むと、加圧調理中に内容物が飛散することがあります。



ロック検知スイッチ

洗わないでください


綿棒などを使用し、ロック検知スイッチの周辺についた汚れを拭き取ってください。



水滴受け (本体背面)

流水で洗う

水滴受けを外側にスライドさせて本体から取り外し、中に溜まった水を捨て、流水で洗ってください。



電源コード


洗わないでください

電源プラグのホコリは乾いた布で拭いてください。ホコリが溜まると湿気などで、絶縁不良となり、火災の原因になります。

パッキン

台所用中性洗剤で洗う


取り外してお湯につけた後、台所用中性洗剤で洗ってください。パッキンは無理な力で引っ張らないでください。パッキンが傷むと、加圧調理中に内容物が飛散することがあります。



ロック検知スイッチ

洗わないでください


綿棒などを使用し、ロック検知スイッチの周辺についた汚れを拭き取ってください。



水滴受け (本体背面)

流水で洗う

水滴受けを外側にスライドさせて本体から取り外し、中に溜まった水を捨て、流水で洗ってください。



電源コード

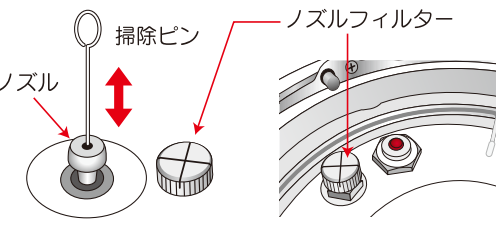
洗わないでください

電源プラグのホコリは乾いた布で拭いてください。ホコリが溜まると湿気などで、絶縁不良となり、火災の原因になります。

ノズル・ノズルフィルターのチェック

- ノズルやノズルフィルターに、料理カスの詰まりがないか確認してください。料理カスが穴につまっている場合は、付属の掃除ピンで取り除いてください。
- ノズルフィルターは確実に取り付けてください。
- ノズルフィルターは反時計回りに回転させて外すことができます。

警告 ノズルが目詰まりしていると、おもりが正常に作動せず、爆発する恐れがあります。使用しないでください。



パッキンをチェック

- 清潔なものが正しくセットされていますか？ 指で丁寧に押さえながら、全周パッキン押さえリングの下に押し入れてください。入りにくい場合は、無理に押し込まずに、やり直ししながら挿入してください。

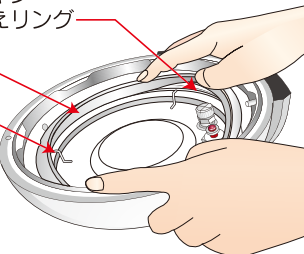
パッキン押さえリング

パッキン

リング支え

パッキンは柔らかいシリコンゴム製です。着脱する時は無理に引っ張ったり、ドライバーなどで押し込まないでください。破損や変形の原因になります。パッキンに傷、ヒビ、割れが発生したり、弾力が無くなったら使用を止め、交換してください。そのまま使用を続けると、パッキンが切れて、内容物が飛散したり、やけどやけがの原因になります。

警告 圧力鍋のパッキンは、消耗品です。安全にご使用いただくため、1年に1回は新しいものに交換してください。



フロートをチェック

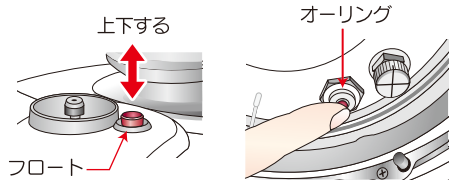
- フタの裏側から、フロートを指で軽く押し上げた後指を離し、スムーズに上下するを確認してください。

上下する

オーリング

フロート

フロートの間に異物が詰まっていたり、オーリングの位置がずれていたり、破損・劣化すると隙間から蒸気が漏れ、圧力が上がりません。そのような場合、P39の弊社【お客様相談室】までお問い合わせください。

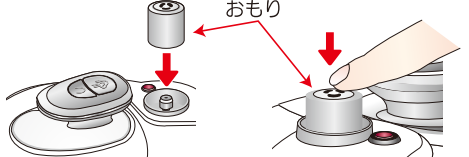


おもりをチェック

- おもりはノズルに真っ直ぐ入れ、指で押さえつけてセットしてください。

おもり

警告 おもりに変形、破損、割れなどの異常がある場合、おもりが正常に作動せず、爆発する恐れがあります。使用しないでください。



排気ボタン・復帰ボタンをチェック

- 排気ボタンを指で押すと、おもりが傾きますか？ その後、復帰ボタンを押すとおもりが、真っ直ぐ元の位置に戻りますか？

排気ボタン

復帰ボタン

傾く

元に戻る

警告 ボタンにゴミなどが詰まっていると、正常に動作しません。おもりが正常に作動せず、爆発する恐れがあります。



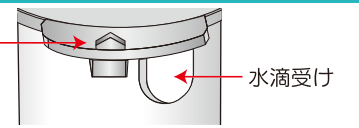
ロック検知スイッチをチェック

- 指で押すと下がり、指を離すと上がってきますか？

ロック検知スイッチ

水滴受け

警告 ロック検知スイッチが正常に動作しないと、フタをしっかりと閉めていても、加圧が始まらない可能性があります。



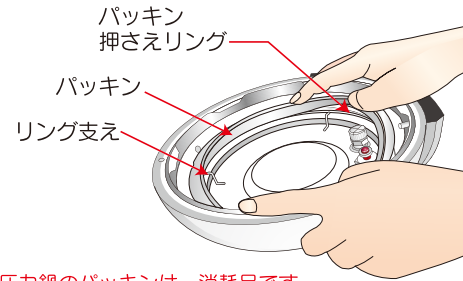
注意 次のものは使用しないでください！

- 金属・ナイロンたわし・スポンジの研磨粒子部分
- ベンジン・シンナー・磨き粉・除菌アルコール・漂白剤
- 食器洗い乾燥機・食器乾燥機



1. パッキンを取り付ける

指で丁寧に押さえながら、全周パッキン押さえリングの下に押し入れてください。
入りにくい時は、無理に押し込まずに、やり直ししながら挿入してください。
パッキンに上下・表裏はありません。

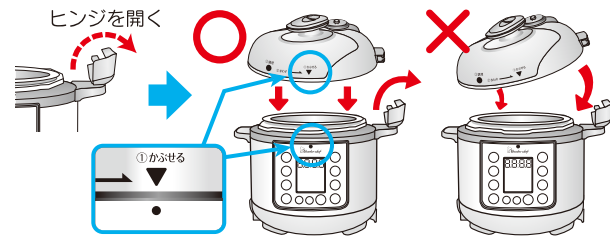


警告 パッキンは柔らかいシリコンゴム製です。着脱する時は無理に引っ張ったり、ドライバーなどで押し込まないでください。破損や変形の原因になります。パッキンに傷、ヒビ、割れが発生したり、弾力が無くなったら使用を止め、交換してください。そのまま使用を続けると、パッキンが切れて、内容物が飛散したり、やけどやけがの原因になります。

注意 圧力鍋のパッキンは、消耗品です。安全にご使用いただくため、1年に1回は新しいものと交換してください。

2. 内がまをセットし、フタをかぶせる

本体に内がまをセットする。
ヒンジを開き、フタの▼印と本体の●印を合わせ、フタを垂直にかぶせます。

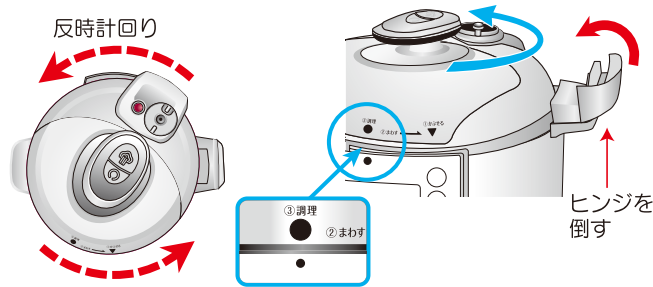


警告 フタが斜めになったり、本体に正常に載せられていない場合は回転しにくくなりますので、強引に回したりしないで、フタをかぶせ直してください。変形や故障の原因になります。

3. フタを回し、ヒンジをフタ側へたおす

フタを閉める前に再確認してください!
フタが斜めになったりせず、本体に正常に載せられていますか？

フタを反時計回りの方向に、止まるまで回し、フタの●印と本体の●印を合わせ、ヒンジをフタ側へ倒してください。

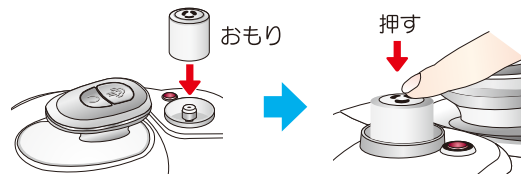


警告 フタをしっかりと閉めずに加熱をすると、蒸気や水分が漏れ、故障の原因となります。

4. おもりを取り付ける

おもりはノズルに真っ直ぐ入れ、指で押さえてセットします。

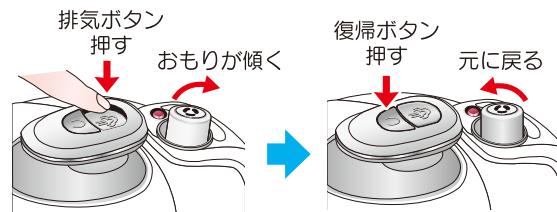
警告 おもりに変形、破損、割れなどの異常がある場合、おもりが正常に作動せず、爆発する恐れがあります。使用しないでください。



5. 排気ボタン・復帰ボタンの確認

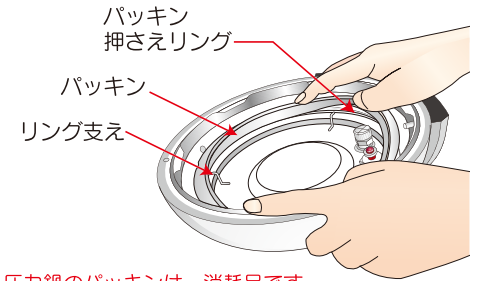
- 排気ボタンを指で押すと、おもりが傾きますか？その後、復帰ボタンを押すと、おもりが真っ直ぐ元の位置に戻りますか？
- 復帰ボタンを指で押して、おもりが真っ直ぐの状態で使用してください。

警告 ボタンにゴミなどが詰まっていると、正常に動作しません。おもりが正常に作動せず、爆発する恐れがあります。



1. パッキンを取り付ける

指で丁寧に押さえながら、全周パッキン押さえリングの下に押し入れてください。
入りにくい時は、無理に押し込まずに、やり直ししながら挿入してください。
パッキンに上下・表裏はありません。

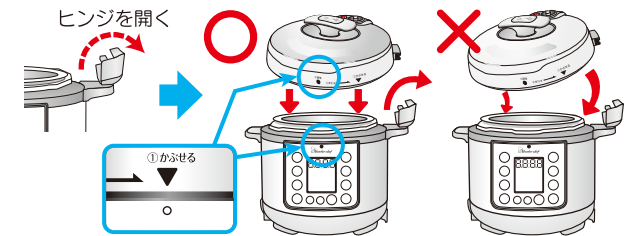


警告 パッキンは柔らかいシリコンゴム製です。着脱する時は無理に引っ張ったり、ドライバーなどで押し込まないでください。破損や変形の原因になります。パッキンに傷、ヒビ、割れが発生したり、弾力が無くなったら使用を止め、交換してください。そのまま使用を続けると、パッキンが切れて、内容物が飛散したり、やけどやけがの原因になります。

注意 圧力鍋のパッキンは、消耗品です。安全にご使用いただくため、1年に1回は新しいものと交換してください。

2. 内がまをセットし、フタをかぶせる

本体に内がまをセットする。
ヒンジを開き、フタの▼印と本体の●印を合わせ、フタを垂直にかぶせます。

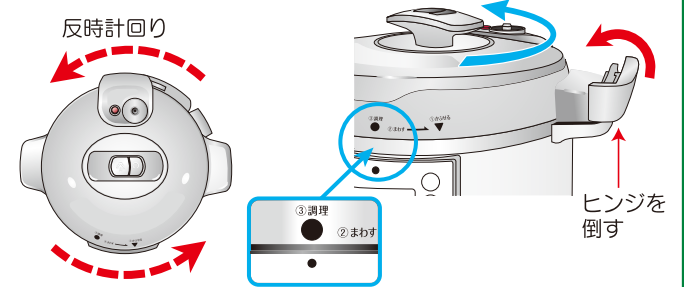


警告 フタが斜めになったり、本体に正常に載せられていない場合は回転しにくくなりますので、強引に回したりしないで、フタをかぶせ直してください。変形や故障の原因になります。

3. フタを回し、ヒンジをフタ側へたおす

フタを閉める前に再確認してください!
フタが斜めになったりせず、本体に正常に載せられていますか？

フタを反時計回りの方向に、止まるまで回し、フタの●印と本体の●印を合わせ、ヒンジをフタ側へ倒してください。

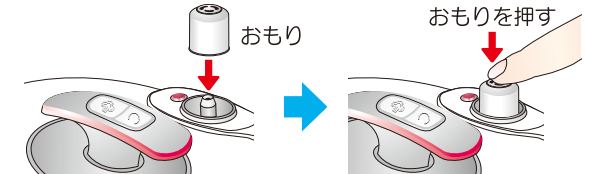


警告 フタをしっかりと閉めずに加熱をすると、蒸気や水分が漏れ、故障の原因となります。

4. おもりを取り付ける

おもりはノズルに真っ直ぐ入れ、指で押さえてセットします。

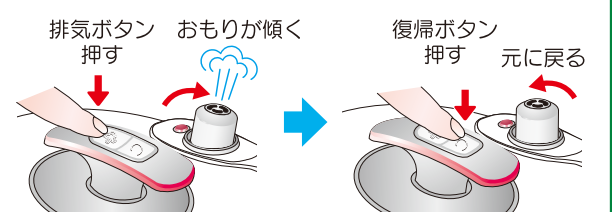
警告 おもりに変形、破損、割れなどの異常がある場合、おもりが正常に作動せず、爆発する恐れがあります。使用しないでください。



5. 排気ボタン・復帰ボタンの確認

- 排気ボタンを指で押すと、おもりが傾きますか？その後、復帰ボタンを押すと、おもりが真っ直ぐ元の位置に戻りますか？
- 復帰ボタンを指で押して、おもりが真っ直ぐの状態で使用してください。

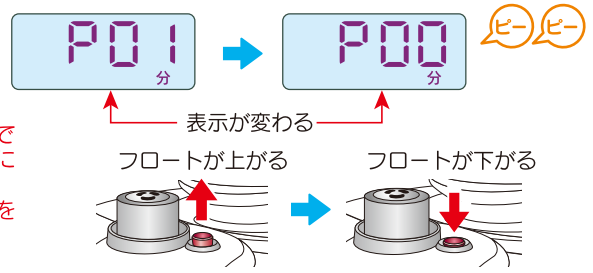
警告 ボタンにゴミなどが詰まっていると、正常に動作しません。おもりが正常に作動せず、爆発する恐れがあります。



1.設定時間が終了したら

設定時間が終了したら液晶表示が【 P01 分 】 → 【 P00 分 】 になります。

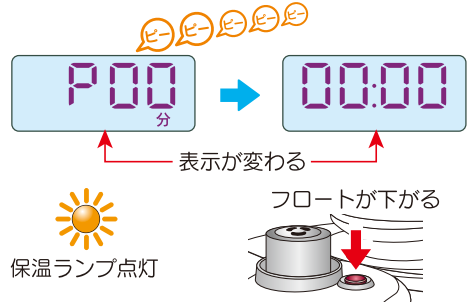
警告 フロートが下がるまで、おもりやフタに触れないでください。フロートが上がっている状態で、無理にフタを開けようとししないでください。フタが飛んだり、高温の内容物が噴出して、やけどをする可能性があります、非常に危険です。



2.調理が終了したら、自動的に保温

調理が終了したらブザー音が5回鳴り、液晶表示が【 P00 分 】 → 【 00:00 分 】 になり、自動的に約70℃で「保温」を維持します。
※加圧調理の「設定時間」終了後、約5分～30分程度でフロートが下がります。

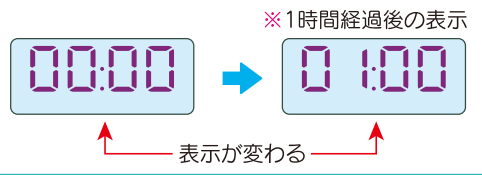
警告 フロートが下がるまで、おもりやフタに触れないでください。フロートが上がっている状態で、無理にフタを開けようとししないでください。



3.保温経過時間の表示

「保温」表示になった後、1分単位で保温時間を表示します。(最大12時間まで保温)

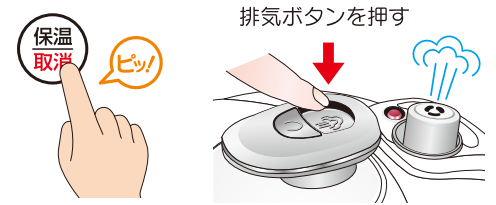
「保温」についての詳しい説明はP21を参照してください。



4.保温/取消キーを押して、排気ボタンを押す

フタを開ける前に、**保温/取消** キーを押し、その後排気ボタンを押して完全に蒸気を排出してください。

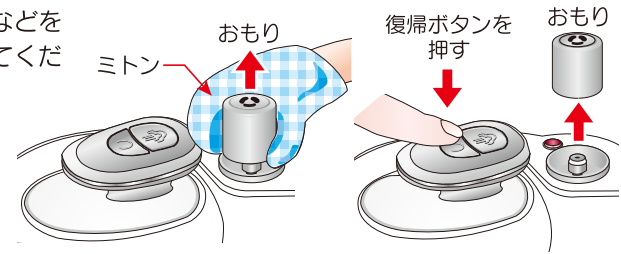
警告 おもりの穴や周辺から、圧力と一緒に蒸気が噴出することがありますので、顔などを近づけないでください。やけどの恐れがあります。



5.おもりを外して、復帰ボタンを押す

完全に蒸気が抜けたことを確認したら、ミトンなどはめてからおもりを外し、復帰ボタンを押してください。

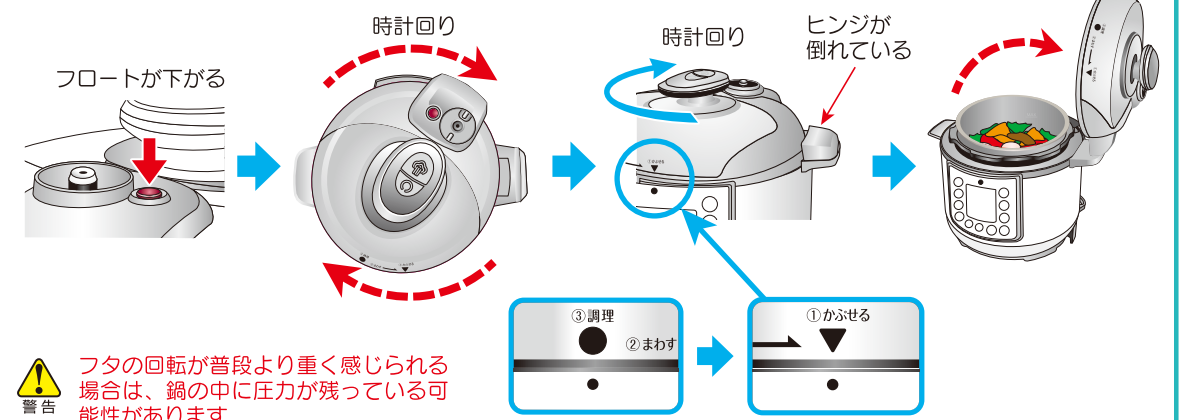
警告 圧力が残っている時におもりを外すと、煮汁などが噴き出し、やけどの恐れがあります。



6.フタを回す・フタを開ける

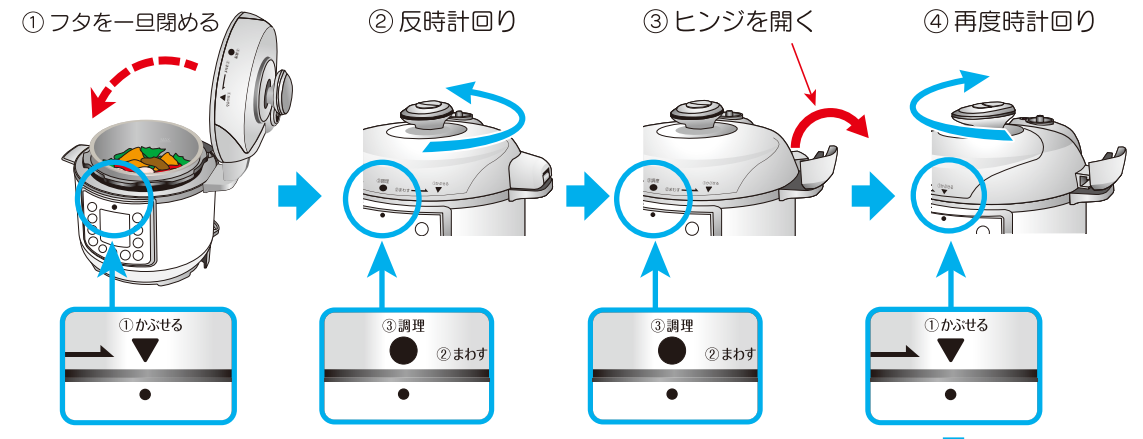
① 必ずフロートが下がっていることを確認し、本体取っ手とフタ取っ手をしっかり持ち、時計回りにフタを回転させます。

② フタの▼印と本体の●印が合う位置までフタを回転させ、ヒンジが倒れていることを確認してから、フタを開けてください。



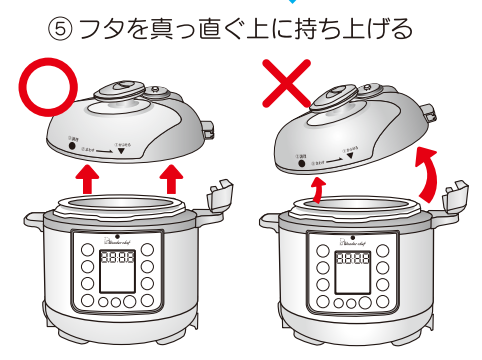
7.フタを本体から取り外す場合

フタを一旦閉め、ヒンジを開き、再度フタを時計回りの方向に回転させてから、フタを真っ直ぐ上に持ち上げて外します。



警告 フタを斜めに持ち上げると、フタの端が本体に引っかかり、鍋が傾いてやけどをする恐れがあります。フタを外す時は、まっすぐ上に持ち上げてください。鍋の中に圧力が残っている時に、無理にフタを開けようとししないでください。圧力調理の後も、鍋の中には圧力が残っています。この状態で無理にフタを開けると、フタが飛んだり、高温の内容物が噴出して、やけどをする可能性があります、非常に危険です。

注意 内がまや金属部分が熱くなっていますので、やけどに注意してください。必要に応じてミトン等をご使用ください。フタを開ける際に立ち上がる蒸気で、やけどをしないよう注意してください。



故障かな？とおもったら

故障かな？とおもったら

◎修理を依頼する前に、次の点をお調べください。
下記の点検・処置をしても改善されない時は、お買い上げの販売店、又はP39のワンダーシェフ【お客様相談室】までご相談ください。
◎熱や蒸気にふれる樹脂成型品は、ご使用にともない傷んでくる場合があります。
お買い上げの販売店、又はP39のワンダーシェフ【お客様相談室】までご相談ください。



こんなときは	原因の確認	このように処置してください	参照頁
キーを押しても作動しない	電源プラグが抜けていませんか。	電源プラグをコンセントに、器具用プラグを本体に確実に差し込んでください。正常な場合、ピー音がします。	4
	保温状態になっていませんか。	保温/取消キーを押し、保温を取り消してから操作してください。	21
調理スタートキーを押しても、調理時間が動かない(圧力調理)	問題ございません。	調理時間は圧力調理開始後、鍋内の圧力が上がるまで動きません。鍋内の圧力が一定になると、調理の残り時間が1分刻みでカウントダウン表示されます。	18
+・-の加熱調理時間の調整ができない	ピー音がなり加熱を開始してから、+・-で時間調整をしていませんか。	調理時間の調整は、各メニューキーを押した後、30秒以内に+・-でセットしてください。	18
調理中・保温中に音がする	「シュッ、シュッ」と言う音がする。(圧力調理のみ)	蒸気音です。故障ではありません。	18
	上記の音とは全く異なった音がする。(調理中の音は除く)	お買い上げ販売店又は、P39の弊社【お客様相談室】にご相談ください。	39
鍋、フタのパッキンから蒸気もれる(圧力調理)	パッキンが正しく取り付けられていますか。	パッキンを正しく取り付けてください。	32
	鍋やフタに異物や水滴が付いていませんか	異物や水滴を取り除いてください。	30
	鍋やフタが変形したり、傷ついていますか。	お買い上げ販売店又は、P39の弊社【お客様相談室】にご相談ください。	39
	圧力鍋のパッキンは、消耗品です。安全にご使用いただくため、1年に1回は新しいものに交換してください。	お買い上げ販売店又は、P39の弊社【お客様相談室】にご相談ください。P39のQRコードから、オンラインストアでもお買い求めいただけます。	39
おもりやフタと鍋の間から煮汁・蒸気が噴き出す(圧力調理)	フタが確実に閉まっていますか。	本体の●印とフタの●印が合う位置(フタを反時計回りに回転させて止まる位置)まで、しっかりと確実に閉めてください。	32
	調理物の量が多すぎませんか。	材料の分量は最高水位線以下にしてください。豆類の場合の分量は、豆類最大線の目盛以下にしてください。	16
	材料に対して水の量が多すぎませんか。	水の量を減らしてください。	16
おもりやフタの通気孔から2~3分間蒸気がもれる(圧力調理)	圧力がかかっている時に急におもりを外していませんか。	排気ボタンを押して蒸気を完全に排出し、蒸気が出ないことを確認してから、おもりを外してください。	19
	問題ございません。	圧力が安定する前に、おもりやフタの通気孔から2~3分間蒸気もれることがあります。異常ではありません。	18
おもりから5分以上蒸気が強く噴き出す(圧力調理)	フタ・おもりは正しく確実にセットされていますか。	正しく確実におもりをセットし、フタを閉めてください。それでも強く吹き出す時は、取消キーを押し、電源プラグを抜き、お買い上げ販売店又は、P39の弊社【お客様相談室】にご相談ください。	39

こんなときは	原因の確認	このように処置してください	参照頁
うまくつukれない ◎煮えすぎる ◎生煮え ◎水っぽい ◎焦げる など	材料の分量を間違えていませんか。	別冊の「クッキングブック」をご参照ください。	-
	調理を間違えていませんか。	圧力調理・オート圧力調理・追加熱調理・温度調理が選択できます。料理にあった調理法を選択してください。	18~27
	内がまは本体に正しくセットされていますか。	内がまを本体に正しくセットしてください。	17
	調理時間を間違えていませんか。	別冊の「クッキングブック」をご参照ください。	-
	炊き込みごはんを作る場合、具と米を混ぜて炊いていませんか。	具は米の上ののせて調理してください。	-
	砂糖などの調味液を溶かしてから入れていますか。	砂糖などの調味液は、あらかじめ溶かしてから加えてください。	16
熱板やセンサーに異物が付いていませんか。	熱板やセンサーに付いた異物は、きれいに除去してください。	熱板やセンサーに付いた異物は、きれいに除去してください。	30
	フロートが上がっていない。	フロートに付いた異物は、きれいに除去してください。	30
樹脂などのおいがする	使い始めたばかりではありませんか。	ご使用とともににおいは少なくなります。	-
プラスチック部分に線状や波状の箇所がある		これは樹脂成形時に発生する線状や波状の跡です。使用上の品質に支障はありません。	-
保温されない	12時間以上、保温を続けていませんか。	保温時間が12時間を超えると、表示が「0000」になり通電をoffします。	21
本体内に水や米などが入ってしまった		故障の原因になりますので、お買い上げ販売店又は、P39の弊社【お客様相談室】にご相談ください。	39
このような表示が出た場合(エラー表示)	[P]が表示される前に、ピー音が鳴る	連続加熱した場合、圧力加熱表示 [P] が表示される前に、ピー音が鳴る場合があります。故障ではありません。	-
	E1	センサーの断線による故障	39
	E2	センサーショートによる故障	
	E3	センサーセンサーの異常温度検知	
	E4	圧力スイッチの故障	
HIGH°C	調理物の温度が高すぎます。	取消ボタンを押し、調理物の温度が下がるのを待ってから、再度調理してください。	27
フタを開ける時のご注意	排気ボタンを押して蒸気を抜いても、フロートが下がらない	フロートが汚れていませんか。	30・34
	フタを開けることができない	フロートは下がっていますか。	34・35
内容器の底が凹凸になっている		故障の原因になりますので、お買い上げ販売店又は、P39の弊社【お客様相談室】にご相談ください。	39
フタやパッキンが変形・破損している		故障の原因になりますので、お買い上げ販売店又は、P39の弊社【お客様相談室】にご相談ください。	39
上記の原因を取り除いても直らない		故障の原因になりますので、お買い上げ販売店又は、P39の弊社【お客様相談室】にご相談ください。	39

ワンダーシェフ家庭用マイコン電気圧力鍋3.0ℓ (OEDG30)
ワンダーシェフ家庭用マイコン電気圧力鍋4.0ℓ (OEDG40)

ワンダーシェフ圧力鍋をお買い上げ戴きましたこと、誠にありがとうございました。
私達は最高の品質の圧力鍋を提供することを目指しております。
いつまでも楽しく、ワンダーシェフ圧力鍋をご愛用下さいませ。

●品名 ワンダーシェフ 家庭用マイコン電気圧力鍋3.0ℓ (OEDG30)
ワンダーシェフ 家庭用マイコン電気圧力鍋4.0ℓ (OEDG40)

●保証期間 1年間 (お買い上げ後) ※お買い上げ日をご不明の場合は、
製造日より1年間とします。

●お買い上げ年月日 年 月 日

●お客様 お名前(フリガナ)

●ご住所 〒□□□□□□□□

●電話番号 () -

●お買い上げ販売店名(詳しくはレシートを参照してください)

株式会社ワンダーシェフ

お客様相談室

〒561-0825 大阪府豊中市二葉町1丁目19-19
TEL.06(6334)4349



●保証内容

- ◎取扱説明書等に記載された通り、正常な使用法において発生した不都合につきましてはお買い上げ後、1年間は無償で修理致します。ただし、次に掲げる内容等により、商品に不都合が発生した場合の修理・交換につきましては実費を頂きます。
 - ① 消耗部品(使用する度に、損耗、劣化する樹脂製品・パッキン・おもり・内がま)・付属品は保証の対象外とします。
 - ② 一般家庭以外(例えば、業務用の長時間使用、車輛、船舶への搭載)に使用された場合の取り扱い不注意等による落下、打ち付け等による損傷、故障。
 - ③ 取り扱い注意事項を守らなかった為に起因する損傷、故障。
 - ④ 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による損傷、故障。
 - ⑤ 天災や火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による損傷、故障。
 - ⑥ その他、異常と思われる使用方法等によって起こる損傷、故障。
 - ⑦ 保証書のご提示がない場合。
 - ⑧ 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
- ◎この保証は日本国内のみ有効です。 This warranty is valid only in Japan
- ◎ご転居、ご贈答品で本保証書に記入してあるお買い上げ店に修理をご依頼になれない場合には、弊社【お客様相談室】までご相談ください。

●保証書の保管

- ◎必ず商品お買い上げの販売店から、お買い上げ日、販売店名の記入を頂くか、レシートなど、購入を証明できるものと一緒に保管してください。ご購入を証明できる物が無い場合、保証対象外とさせていただきます。
- ◎保証書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

●修理のご依頼

- 保証期間以内：恐れ入りますが、製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店にご持参ください。
- 保証期間以後：保証期間が過ぎている場合、ご希望により有料にて修理させていただきます。ご相談の際、製品名、品番、製品の状況をできるだけ詳しくお知らせください。ただし、弊社が修理不可能と判断した場合は、修理をお断りさせていただきます。

●補修用性能部品

- ◎補修用性能部品の保有期限は、製造終了後約5年とさせていただきます。この期間は経済産業省の指導によるものです。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)
- 保有期間内であっても修理をお断りさせていただきます。

●その他

- ※本書の記載の意匠、仕様および部品は品質向上のために、一部予告なく変更することがあります。
- ※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
- 従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店又は、弊社【お客様相談室】までご相談ください。

●各部品について(別売部品としての販売)

- ※内がま・電源コード・パッキン・おもり・クッキングブック・ガラス蓋・取扱説明書・蒸しす・ノズルフィルター・調理小物は、別売部品として販売しております。
- ※その他の本体部分は、アフター修理での部品交換として取り扱います。

QRコードを読み取って頂くと「家庭用マイコン電気圧力鍋3.0ℓ・4.0ℓ OEDG30・OEDG40」の部品購入ページをご覧いただけます。

※QRコードが読みとれない場合は、URLを直接入力してください。

OEDG30: https://www.wonderchef.jp/support/parts/parts.php?mode=amount&product_id=179
OEDG40: https://www.wonderchef.jp/support/parts/parts.php?mode=amount&product_id=180



部品注文は
コチラから
QRコードは
弊ウェブ
ページの
登録商標です。

パッキンの交換日を記録しておきましょう!

電気圧力鍋購入日	年	月	日
パッキン交換日	年	月	日
パッキン交換日	年	月	日
パッキン交換日	年	月	日
パッキン交換日	年	月	日
パッキン交換日	年	月	日

※圧力鍋のパッキンは、消耗品です。
安全にご使用いただくため、1年に1回は新しいものに交換してください。

株式会社ワンダーシェフ

お客様相談室

☎06(6334)4349 ☎06(6334)4343
受付時間/午前 9:00 ~ 正午 12:00
午後 1:00 ~ 午後 5:00
(土、日、祝祭日、年末年始、盆休みを除く)